京都 平安京の天門

御神忌 千百二十五年

半萬燈祭

未来へつなぐ誠の心

令和9年 2027

謹賀新年

天満宮

題字／後西天皇御宸筆

特集

◆千百二十五年半萬燈祭記念事業 風月殿竣工に寄せて
菅家廊下から続く学問所の伝統 ―小教院、皇典研究所、そして風月殿へ―
京都市長 門川 大作さん

◆天神さまと私

◆錦秋の史跡御土居 今年も美しく
天正の大茶湯の歴史舞台で繰り広げる文化行事の数々

北野天満宮社報 新年号 Vol.38
KITANO TENMANGU NEWS

日本文化の中心地 京都
その文化の礎を築いた天神信仰発祥の社

北野天満宮の由緒

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の天門にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満大自在天神」の神号を賜り、さらに皇室・朝廷の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格、皇城鎮護の神として崇められるとともに、天満宮・天神社の総本社として崇敬されてきました。

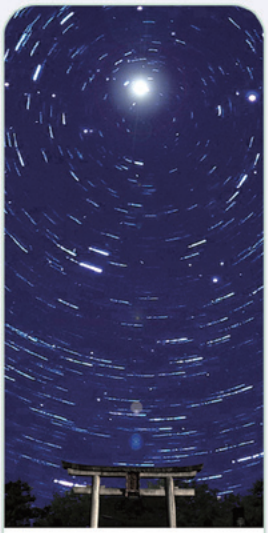
創建以来、皇室との御縁深く、寛弘元年（一〇〇四）には一條天皇がはじめて北野社に行幸されました。以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに将軍家や有力大名の崇敬を受けました。菅公薨去延喜三年（九〇三）より凡そ百年の歳月をかけて誕生した北野の天神信仰は、平安京の天門にあって、朝野を問わず人々の暮らしの最も重要な指針となり今日まで育まれてきたのです。

「文道大祖 風月本主」と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されるとともに、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民に至るまで「天神様」として親しまれてきました。菅公は、学者・政治家また詩人・教育者として多方面に活躍され、生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生き続けています。

千有余年に亘る歴史の中で受け継がれてきた天神信仰の根本を示すのが、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」承久本です。数ある縁起絵巻の中で唯一無二の神社絵巻物であり、その信仰性や描かれる世界観、美術的価値は世界が認めるところであります。

また現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として、慶長十二年（一六〇七）に造営された一大建築群です。御本殿は八棟造（やつむねづくり）と称され、国宝の指定を受ける桃山文化の代表的建築です。その絢爛豪華さは謂うまでもありませんが、特に多数の桃山建築中でその創建当時の規模そのままに保存されているのは当宮が唯一のもので、後世の権現造の原型となるなど、神社建築史に多大な影響を与え続けています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神様として今日も多くの参詣者が訪れています。



京都 平安京の天門

【シンボルマーク】

平安京の天門に位置する北極星を星梅鉢と鳥居（北野）で捉えたマーク。北野は千二百年に亘り、国都として文化を育んだ平安京にて、天の神々の出入口「天門」に菅原大神が奉祀された聖地です。爾来、北野の地より全国に天神様の御神威が益々昂揚していきました。

表紙写真　―約120年ぶりに再興「風月殿・風月の庭」―

風月殿は、明治初期に半官半民の教育・布教・研究機関のひとつである小教院として新設された建物である。明治35年の菅公御神忌千年大萬燈祭に際しては、近代日本庭園の先駆者と称される七代小川治兵衛氏によって御庭（神苑）も作庭された。

来る半萬燈祭に向け、約120年の時を経て、植治次期十二代小川勝章氏により装いも新たに御庭が蘇り、国内外に広く天神信仰と日本文化を体感できる場として活用する。

新年の御祝辞

干支（辰）絵馬（日本画家 堂本印象作品鑑定士　三輪純子画伯作画）

謹賀新年

年頭にあたり、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄を言祝ぎ奉り、国家の隆昌と氏子崇敬者皆様方のご健勝とご多幸を衷心よりお祈り申し上げます。

旧臘、伝統の御茶壺奉献奉告祭から、天正の北野大茶湯を偲ぶ献茶祭までの一連の神事を、古式ゆかしく斎行申し上げました。北野伝統の御茶壺行列によって、献上された山城六郷の青々しい碾茶を抹茶とし、表千家久田家半床庵御社中のお当番、表千家左海大宗匠のご奉仕にて斎行致しました献茶祭は、天候にも恵まれ、各茶席と上七軒歌舞会の副席、菓匠会の協賛席などが賑々しく開かれ、境内一円は多くの数奇者で賑わいました。関係各位の皆様に改めて御礼を申し上げる次第でございます。

さて、同昨秋、江戸時代に宮中より当宮に奉納された天皇・上皇・公家のお詠みになられた和歌約二五〇〇首を『北野天満宮聖廟法楽和歌集』として発刊致しました。聖廟とは北野天満宮を表し、法楽とは芸事や詩歌で御神霊をお慰めすることを指します。宮中では、歴代天皇が当宮への信仰を「聖廟法楽」という形式で表し、膨大な数の和歌をお詠みになられ、御祭神菅公の御神霊をお慰めし続けて来ました。

霊元上皇の仙洞御所では、貞享四年（一六八七）から元禄三年（一六九〇）までの三年間、御縁日に合わせ三十七回に亘り「聖廟月次法楽」が開かれ、毎回五十首、一八五〇首もの和歌が詠まれ奉納されました。当宮には三光門に掲げる後西天皇の勅額「天満宮」や、霊元天皇が御本殿前中庭に御寄進された石燈籠一対などが見られ、改めて当宮に対する皇室の篤い御信仰の程、ありがたく思う次第でございます。

また今回の調査で、勅撰和歌集『古今和歌集』の解釈を、精通した師から弟子に伝える秘伝「古今伝授」を、皇室では上皇や天皇に伝授が行われた際、その証として当宮に奉納された和歌が、約六〇〇首も遺されていたことが明らかとなりました。宮中では伝授後に歌会を開き、歌神に和歌を奉納するのが慣例でありました。寛文四年（一六六四）、後水尾法皇から後西上皇への伝授を最初に、霊元・桜町・桃園・後桜町・光格・仁孝の各天皇が伝授され、その都度和歌が奉納されるなど、江戸時代を通して当宮が和歌の神として格別の崇敬を受けていた証であります。創建以来、菅公を和歌三神として崇める信仰は、いつの世も決して途切れることなく継承され続け来たことに感銘を受ける次第です。

新年を迎え、令和九年の菅公御神忌千百二十五年半萬燈祭まで愈々三年となりました。菅公の詩歌の神としての信仰はもとより、その多角的な研究をさらに進め、天神信仰の発揚と旧儀復興に努め、半萬燈祭を盛儀の裡に執り納めることこそ、御祭神への無上の法楽になろうかと思う次第でございます。

御神縁深き皆様には、本年も天神信仰発揚と天満宮護持のため、倍旧のご厚情を賜りますようお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

令和六年 甲辰 元旦

北野天満宮
宮司　橘　重十九

菅公千年祭の神苑が令和の世に再び
風月殿 並 風月の庭竣工奉告祭斎行

菅公御神忌一千年（明治三十五年）大萬燈祭以来約百二十年ぶり御庭再興

風月殿・風月の庭

風月殿並びに風月の庭竣工奉告祭を十一月六日午前十時半から御本殿に約三十人の参列のもと斎行した。

祝詞奏上の後、巫女が紅わらべを奉奏、宮司が玉串を奉った後、当宮責任役員を代表して田邉親男氏（親友会グループ会長）、天満宮講社を代表し下川理氏（天満宮講社会長千玄室裏千家大宗匠御名代）、風月殿改修工事関係者を代表して川島克也氏（株式会社日建設計取締役副会長）、御庭作庭工事関係者を代表して小川勝章氏（植治次期十二代）、特別崇敬者を代表して豊田晋氏の五人が玉串拝礼された。

この後、参列者は竣工となった風月殿に移動。御庭に出て小川氏の熱のこもった説明を聞きながら美しい御庭に見入った。

さらに、ガラス越しに御庭が見える風月殿の広間に移り、建物の調査研究をされた小出祐子大阪芸術大学准教授が「高倉家という江戸の貴族の屋敷を明治六年に移築したもの。貴族屋敷があまり残っていない中、風月殿という新たな命を吹き込まれ、菅公の御導きのもとで久しく後世に伝え遺して欲しい」と解説。

次に直会に移り、宮司が「立派に完成し感動している。関わって頂いた方々に心から御礼申し上げます」と挨拶。続いて小川氏が「皆様に見て頂き御庭も喜んでいると思います。御庭に佇むお牛さまも松も梅も皆が喜んでいると思います」と挨拶し乾杯の発声をされた。

「風月の庭」 七代小川治兵衛氏作庭の御庭に新たな息吹 次期十二代小川勝章氏により作庭

この御庭は明治五年、大教宣布運動が活発化し、当宮に半官半民の教育・布教・研究機関として新設された「小教院」に隣接した御庭である。

菅公御神忌千年大萬燈祭の折には、当時の七代小川治兵衛氏によって御庭（神苑）が作庭された。同氏は歴代小川治兵衛のなかでも作庭数が多く、近代日本庭園の先駆者とも称された。今回、令和九年に迎える菅公御神忌千百二十五年半萬燈祭の主要事業の一つとして、明治三十五年の小教院作庭より約百二十年ぶりに、植治次期十二代小川勝章氏により、装いも新たに御庭が蘇り、今後は国内外に広く天神信仰と日本の伝統文化が体感できる場として活用する。

花崗岩の臥牛の赤牛さま

佇む臥牛の石造りのお牛さま

築山中央に植えられた赤松「一夜松」

ライトアップした風月の庭

天神信仰に寄り添う「風月の庭」

【築山】

庭園中央の築山（小高い丘）は、御祭神がお鎮まりになる御墓所と見立てられ、満天の星に比喩された御鎮座由来の松が植えられている。風月殿の部屋から、そして沓脱石（部屋から庭園に出る足掛かりの平石）から、「風月の庭」を鑑賞することは即ち、御祭神を遥拝することに通ずる姿である。

【臥牛のお牛さま】

既存の築山には石造のお牛さまが御本殿を向いて鎮座されていた。新たな御庭では、同じ場所ではあるものの、台座を高くし、御本殿や風月の庭を見守るよう鎮座されている。

【臥牛の赤牛さま】

高知県仁淀川の赤い自然石。その姿は見るからに赤牛さまで、お牛さまと同じく御本殿に向かれている。

【一夜松】

当宮御鎮座由来の松は、最も重要な御神木である。松の葉の一本一本は星に見立てられ、一夜にして生えた千本もの松は満天に輝く星を表している。

この御庭には、北極星瞬く聖地北野と星の信仰を物語る五本の松が元々植えられており、今回新たに二本の松を加え、七本とすることにより七本松の姿とした。築山中央に植えられた赤松は「一夜松」と命名した。

【梅手水・梅蹲踞】

川筋中央に据えられた溜り石（窪みに水が溜まる石）は、長い歳月を掛け水の流れが石に二つの窪みを生み出したもの。そこに水を湛えることで手水鉢としての役目を担う。その姿は梅花を思わせる。周囲にも赤石を用いて手燭石（灯りを置く石）や湯桶石（湯桶を置く石）を据え、蹲踞（御茶事の折に手と心を清める）を設えた。蹲踞の赤石は梅の風情を漂わせ、雨滴によって更に深く赤く輝く。

【梅の御印】

滝の北側、山手の高い位置に六石の赤石を設置した。これらは当宮の梅の御印になぞらえ、梅手水・梅蹲踞と共に、梅を植えずして梅を尊ぶ趣向である。

【滝組の頂】

元々この御庭に据えられていた既存石。松梅院や境内から移設した石や新たに置かれた石など三種の所縁からなる庭石が一体となり、風月の御庭は構成されている。滝組の頂に据えられた石は、既存石の中で一際力を宿す石であり、最も高い位置に据えられ、水の流れの源となっている。

【滝の川】

当宮は、古来境内東に松葉川、西に紙屋川が流れ、清水によって祓い鎮められる聖地である。風月の庭の川筋もまたその役目を担う水として流れ、御庭を祓い清めている。

夜間は幻想的な雰囲気の御庭に

当宮御鎮座由来の松が植わる築山

千百二十五年半萬燈祭記念事業 風月殿竣工に寄せて
菅家廊下から続く学問所の伝統 ―小教院、皇典研究所、そして風月殿へ―

北野文化研究所　室長　松原　史

かつて小教院、皇典研究所と呼ばれた当宮の社務所が、この度大規模な修繕を終え、風月殿として生まれ変わった。これは千百二十五年半萬燈祭記念事業として進められている境内整備の一環として行われた事業であるが、同時に進めている文化財再調査委員会による調査においても、新たにこの風月殿の歴史について興味深い事実が発見されたため、改めて繙きここにご報告する。

【小教院（説教所）の創建】

御本殿の南東にあたる場所に建つ現在の風月殿は、明治六年（一八七三）に創建された。明治三年（一八七〇）明治新政府によって大教宣布の詔が発せられ、神道の国教化を目指す大教宣布運動が起こったことを背景に、その流れを推し進めるための具体的な機関として明治五年（一八七二）、東京に大教院、各都道府県に中教院を一社ずつ、その他主要な社寺に小教院を速やかに設置するよう決定された。翌年中を目指して設置を急いだためか、既存の建物に間借りするような形で小教院を設置する例が多かったなか、当宮においては、新たに四十六畳敷の広間を有する立派な建物が明治六年から七年にかけて高倉家から移築の上竣工し、名実ともに教学機関としての役割を果たすこととなった。当初は神仏合併の教導職のための養成道場として設立されたためか、「小教院」を「説教所」とする絵図も残されている。（のち、仏教側の反発・離脱により神道のみの教導施設となった。）

※史料によると明治六年七月現地で建物が解体され、十一月に当地で上棟式が行われたとある。また明治七年一月に到り、神座への御霊遷が行われたという記録も残る。

【高倉家の建物を移築し、法華堂跡地に建てられた小教院】

法華堂跡地に建てられた小教院

当宮に伝わる最も古い絵図、室町時代の《北野曼荼羅（社頭古絵図）》をたずねると、御本殿の南東にあたるこの場所には、この時すでに法華堂が建てられていたことが分かる。法華堂とは法華三昧堂の略称で、天台宗の僧侶らがその名の通り法華三昧の行を行うための道場であり、比叡山延暦寺を本山とした当宮にとっては、信仰の中心的意味を持つ大変重要な建物であった。また江戸時代を通じて、式年大祭である萬燈祭で御本殿のお屋根の修繕を行う際には、仮殿として御祭神をお遷ししてお祀りする役目も果たしていた。しかし明治の世を迎え神仏分離による境内一新の際に、この法華堂は多宝塔、鐘楼などと共に境内からは一掃されている。その後、御本殿にほど近いこの法華堂の跡地に小教院として建てられたのが、当宮の社務所風月殿であった。

高倉家の建物を移築した旧公家屋敷

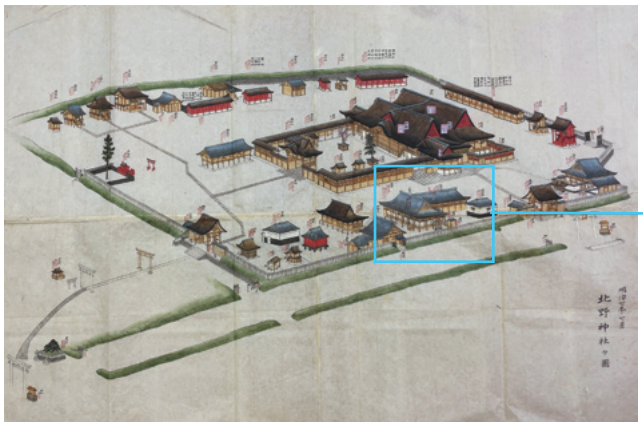
明治はじめ、明治天皇が京都から東京へお遷りになり、公家の多くもそれに続いた。それに伴い公家屋敷も多くが取り壊され、御所の北に門戸を構える冷泉家の邸宅などを除き、今も遺る公家建築の邸宅は驚くほど少ない。

当宮の社務所は、以前より口伝において「高倉家の衣紋道場を拝領した」と一部に伝わっていたが、この度の文化財再調査委員会による調査において、実際に明治六年から七年にかけて当宮が高倉家の建物（御殿、玄関、中門、使者の間等）を移築していたことが確認された。京都に残る数少ない公家屋敷であるという一点のみとっても大変貴重な発見であったといえるだろう。

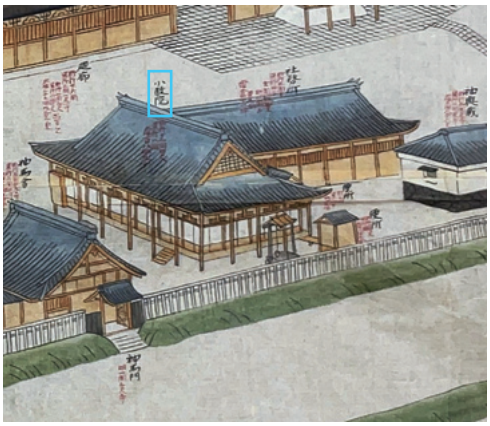
高倉家は、衣紋道を代々伝える家で、「文道大祖　風月本主」とたたえられた菅公を御祭神としてお祀りする当宮とも浅からぬご縁があり、旧屋敷の当宮への移築へとつながったと思われる。

瀟洒な公家建築の特徴

広間の入り口の上部には、大変細かい格子が組まれた筬欄間がはめられ、その枠や襖の鴨居の古風な付樋端には漆塗りが施されている。また襖の引き手や釘隠などの金具には、細かな細工が施されており、一見したところ派手さはな

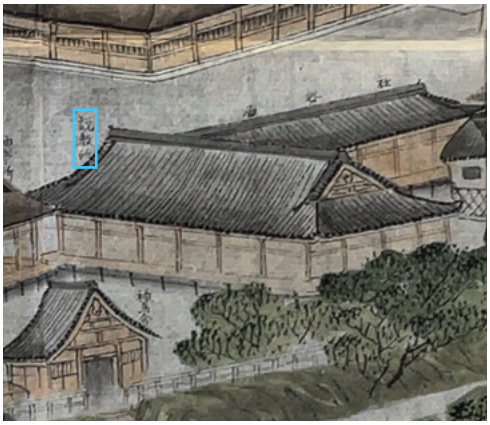


明治 7 年（1874）絵図「小教院」表記



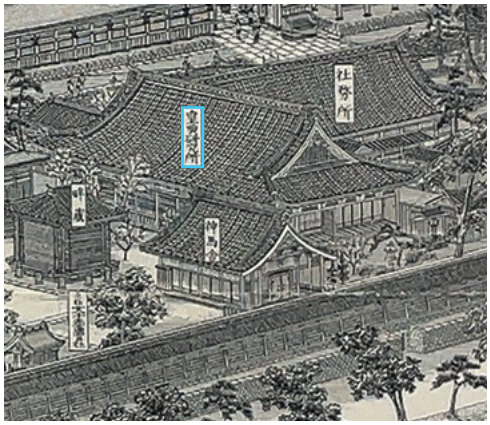
小教院

明治 6−7 年（1873−1874）絵図「説教所」表記

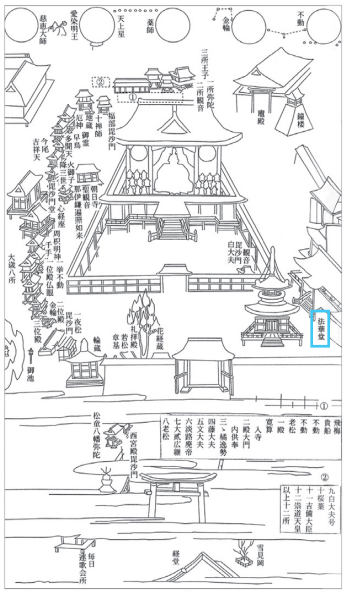


説教所

明治 28 年（1895）絵図「皇典研究所」表記

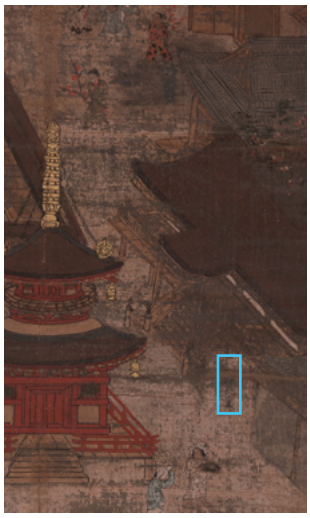


皇典研究所



《社頭古絵図》描きおこし図

《社頭古絵図》



法華堂

いものの細部にまでこだわりを持って作り込まれた質の高い瀟洒な建物であり、専門家によるとそれがまさに公家建築の特徴であるということである。

奥の間の天袋、地袋には文化年間に活躍した文人画家浦上春琴による草花図が描かれている。春琴は蘭を描かせれば当代一と言われた人で、頼山陽、田能村竹田らとともに活躍した人である。

かつての小教院―神座と呼ばれた大床

四十六畳敷の広間には、大変大きな床の間があり、かつてそこは神座とも呼ばれた特別な意味を持つ空間であった。毎朝その神座に向かってお供えと拝礼が行われていたとも伝わっている。当時どのような形で装飾されていたのかは定かではないが、竣工式の際には、御神前で日々神学の研究がなされてきたであろう歴史を踏まえ、狩野探幽、狩野常信による三幅対の御神影を大床に掛け見守っていただいた。

高倉家より移築した公家建築に特徴的な細かな格子の筬欄間（おさらんま）

建造物的にも、木造建築でこれだけの天井高を持ち、和小屋で柱間五間をとばし大きな空間を確保するというのは珍しいことであり、この度の調査で小屋裏まで確認したところ、やはり大変立派な梁を持つ貴重な建築であることが確認できた。後年改造されたとみられる明かり取りの構造も櫓を組んだような独特な造形をしており、古い建造物を生かして大切にしてきた歴史を垣間見ることができた。

明治時代初期の竣工にしては古色を帯びた柱や金具、そして木材の収縮を防ぐために施される背割の面の不統一、部材に残る様な埋木の痕跡など、この建造物の持つ謎かけのような部分が、こうした高倉家の御殿の移築であったという事実および、可及的速やかに小教院が設置されたという歴史的背景により氷解した。

なお、中教院、小教院の設置に関しては、明治五年に決定されたが、都道府県によっては明治七年以降まで設置がずれ込んでおり、明治六年段階での建物建造を含む小教院の設置がいかにスピード感を持って行われたかがうかがえる。

以上見てきたように、この度、風月殿として竣工した当宮の社務所は、明治新政府の方針のもと、高倉家より御殿を移築し、小教院として建てられた建造物であったことが明らかになった。

かつて神座と呼ばれた大床を有する旧小教院広間
強靭な梁などの構造が四十六畳敷の広間を可能にしている

【皇典研究所―連綿と続く学問の社の伝統】

明治十五年（一八八二）、明治新政府の方針のもと、東京に古典研究と神職養成を行なう「皇典講究所」の設置に伴い、翌明治十六年には京都分所設立が決定され、明治十九年に開校した。当初小教院として竣工した当宮の社務所も、その動きに連動し、皇典研究所へと発展的組織改変がなされたようである。

楼門に掲げられた
「文道大祖 風月本主」の額

書肆の神を象徴する北野文庫

当宮に北野文庫として伝わる膨大な書籍は十万冊にも及ぶが、そのうち社務

所に備え付けられている書架は、皇典研究所の文庫として使用されてきたものであると伝わる。

まさに御祭神菅公がかつて自宅の廊下を開放し、「菅家廊下」と称される日本で初めての私塾を開いたその伝統に倣い、中世以降も北野学堂での宮仕の学問、そして明治の小教院へと続く学問の中心的社としての当宮の存在が改めて確認されたといえるだろう。

「道」を修練する場であった皇典研究所

北野文庫蔵書の一部

皇典研究所では様々な講義や研究が行われていたようであるがその一端を物語る花入が伝わっているのでご紹介したい。この竹の花器には、裏千家十二代又妙斎による朱書きがなされており、それによると、明治十七年三月二十五日 皇典研究所（当宮風月殿広間）で七事式（茶道の修練のため千家により制定された式作法。闘茶に着想を得ているともいわれ、花月・且座・茶かぶき・員茶・回り炭・回り花・一二三の七種。それぞれに禅的な裏付けがあるという）が行われた際に新調し、今後明月舎に寄付する旨記されている。又妙斎は明治維新当時の茶道にとっても困難な時代に当主として舵取りをした人物で、当人は清貧の生活をしたと伝わるが当宮での献茶や昭和天皇立太子の際の献茶なども行なった。

皇典研究所は神学や古典の講義が行われるだけでなく、このような茶道やその他様々な「道」の修練の場としても活用されていたことがわかる。

歴代宮司も体現した道の研究

当宮歴代宮司の中にも学問の徒は多く、明治九年（一八七六）より二十四年（一八九一）まで宮司を務めた田中尚房氏は、膨大な資料から当宮の歴史を繙くだけでなく、有職故実の研究にも明るく装束や文様についての著書も多く残している。ここにもまた当宮と衣紋道の高倉家との繋がりを感じさせるのだが、一方で様々な文化人とも広く交流し、自らも絵を嗜むなど、研究と実践をまさに体現した人物であった。また大正六年（一九一七）から昭和九年（一九三四）まで宮司を務めた山田新一郎氏は、膨大な書物や一次資料を繙き当宮の故事を尋ね膨大な書物を残すとともに、大正元年（一九一二）より「皇典講究所」の幹事長も務めていた。

皇典研究所という場、そしてそれを取り巻く神職をはじめ多くの京都の文化人らにより、学問の教授と実践の場としてこの風月殿の広間は受け継がれてきたのである。

皇典研究所で茶道の七事式が
行われたことを表す花入

【結びに】

この風月殿の改築竣工に至るまで様々な出来事があったとうかがっている。一度は取り壊しが決定していたかつての小教院が、今、このような形で生まれ変わり、御庭とともに新たな息吹がふき込まれて次代へと受け継がれようとしている。コロナ禍を経て様々な要因が重なりこのような形に相成ったわけであるが、結果的にまさに菅公のお導きとしか言いようのない理想的な形に落ち着いたといえるだろう。一つでも時と場の掛け違いがあったならば、建物や御庭の歴史を繙き小教院、皇典研究所の歴史を今の世に再認識することはなかったのかもしれない。歴史上、萬燈祭ごとに繰り返されてきた境内整備並びに文化財の再調査、修復、保存の伝統、その節目ごとに歴史の検証を繰り返し行い、新たに位置付けていくことの意義を再認識させる風月殿の竣工であった。

天正の「北野大茶湯」の縁を今に

献茶祭（久田家半床庵お当番）厳かに斎行
表千家 左海宗匠ご奉仕

献茶ノ儀（表千家 左海 大 宗匠ご奉仕）

豊臣秀吉公が天正の昔、当宮境内で催した大茶会「北野大茶湯」の縁を今に継いでいる献茶祭を、十二月一日午前十時から御本殿において多くの関係者参列の下、厳かに斎行した。

御神前でのご奉仕は、在洛の四家元二宗匠（藪内家・表千家・裏千家・武者小路千家・堀内家・久田家）が輪番で務めるのが当宮の伝統であり、本年は久田家半床庵が当番年に当たるが、表千家の左海大宗匠（ひろし）がご奉仕され、御祭神と豊太閤を祀る末社豊国神社の御神前に献ずる濃茶・薄茶を二碗ずつお点てになった。

御神前に濃茶薄茶が供えられ、宮司が祝詞を奏上。次に宮司が玉串を捧げ、次いで表千家の左海宗匠、席主代表として嘉祥会の深尾正氏、献茶祭保存会代表として畑正高氏、参列者代表として久涼会の村田昌子氏がそれぞれ玉串拝礼し、御本殿での祭典をつつが無く執り納めた。

御本殿前の西廻廊に設けられた特別観覧席では、多くの人が左海宗匠のお点前など祭典の模様をモニター越しに観覧した。

豊太閤祀る豊国神社献茶祭斎行

御本殿での祭典に続き、左海宗匠らは豊国神社へ参進、権宮司を斎主に献茶祭が斎行された。もみじ観覧で訪れた多くの外国人観光客や参拝者が足を止めて、古式ゆかしい献茶の神事を見守った。

茶人で賑わう境内 新装の風月殿にも拝服席・副席

今回は竣工したばかりの風月殿大広間に拝服席（半床庵）が、また同奥の間に副席（清和会）が設けられたほか、明月舎（嘉祥会）、西方寺（久涼会）、松向軒（松向軒保存会）、上七軒歌舞練場（上七軒お茶屋組合・上七軒芸妓組合）にもそれぞれ副席が設けられ、コロナ禍以前の規模に戻った境内一円は、秋晴れの下、多くの茶人や愛好家、参詣者が訪れた。

豊国神社献茶祭

宮司玉串拝礼

副席　久涼会

副席　上七軒お茶屋組合・上七軒芸妓組合

献茶祭保存会役員以下関係者ご参列（渡辺孝史氏・畑正高氏・鈴鹿且久氏・長谷幹雄氏・山本源兵衛氏）

副席　松向軒保存会

副席　嘉祥会

拝副席　半床庵御社中

菓匠会が献茶祭に協賛
「暖」を菓題に珠玉の一品を展示

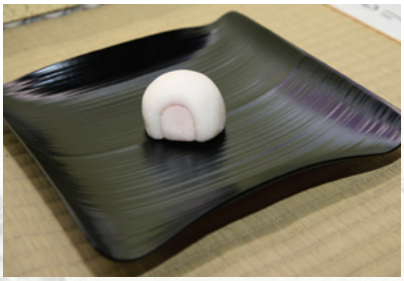
献茶祭に例年協賛し、本年も京都の老舗和菓子店で組織する「菓匠会」が、絵馬所で飾り菓子の展示会を開いた。

「菓匠会」は、江戸時代の禁裏御用達「上菓子仲間」の流れをくむ老舗和菓子店で組織されており、毎年「菓題」を定め、各菓子店が工夫溢れる飾り菓子を出品展覧している。

今年の菓題は「暖」で、それに基づき各店が「聖夜」「離宮の朝」など様々な題をつけ、珠玉の一品を展示した。展示されたお菓子のそばに寄って見つめる人が列を成し、寒さを忘れさせる一時の「暖かさ」を、和菓子を通じて来場者は感じていたようだった。

菓匠会一覧

信房屋　奥堂廣　長軒　軒　軒　織　保　富　永　屋　月　永
吉良　駿河　陸　久末　良壽壽　玉玉芳　伊廣　清狭若　良
屋善　町斗屋　屋　家本　屋　屋條　屋
鶴鍵先亀長亀亀本千塩笹亀末亀二嘯亀



嘯月「ぬくもり」

鶴屋吉信「暖簾」

笹屋伊織「団欒」

展示された飾り菓子に見入る参拝者

献茶祭に先立つ神事

御茶壺奉献奉告祭、厳かに斎行
御茶壺行列・口切式も古式ゆかしく

秋晴れのもと、古式ゆかしく山城六郷（産地）からの御茶壺行列

献茶祭に先立つ十一月二十六日午前十一時から御本殿において、献茶祭に使われる抹茶の原料「碾茶（てんちゃ）」を奉献する御茶壺奉献奉告祭並びに口切式を厳かに斎行した。

碾茶の奉献は、毎年山城六郷（木幡・宇治・菟道・伏見桃山・小倉・八幡・京都・山城）の茶生産者と京都市茶業組合を始めとする茶業関係者らの供奉によって行われるもの。茶壺は茶産地ごとに唐櫃に収められ、一の鳥居から御本殿まで、絣（かすり）の着物、姉さんかぶりの茶摘み娘を先頭にした御茶壺行列で賑々しく運ばれた。

御茶壺が御神前に供えられ、厳粛に祭典が斎行された後、茶壺の口切式が行われた。御神前の御茶壺は一壺ずつ神職によって四人の献茶祭保存会役員のもとに運ばれ、保存会役員が茶壺の封を切って、茶舟の上に青々と色鮮やかな碾茶を盛り上げた。碾茶の芳しい香りが御本殿内を包む中、碾茶が盛られた茶舟が木幡から順番に献茶祭保存会宰領の渡辺孝史氏の前に運ばれ、見知が行われ、立派で上質な碾茶が御神前に厳かに献上された。

献茶祭保存会役員奉仕による口切式
（畑正高氏・鈴鹿且久氏・長谷幹雄氏・山本源兵衛氏）

御神前に献上された茶壺と碾茶

宰領渡辺孝史氏による碾茶見知

天正の「北野大茶湯」と息づく茶文化
連綿と続く献茶神事と遺構

千二十五年半萬燈祭（昭和三年）御茶壺行列

北野大茶湯（宇喜多一蕙）

当宮にて十二月一日に斎行する献茶祭の由来であり、我が国のお茶の歴史上、広く語り継がれる「北野大茶湯」は、天正十五年（一五八七）十月一日（旧暦）、関白豊臣秀吉公が当宮境内において、千利休居士をはじめ、津田宗及・今井宗久居士らとともに亭主を務めて開いた大茶会として名高い。

「茶好きの者は、町人・百姓・唐人に至るまで参加せよ」の高札が都の各所に立ち、拝殿には数々の名器が展観され、北野の杜には八百とも千ともいわれる茶席が並ぶ、まさに空前絶後の大茶会であった。

境内には「北野大茶湯」の名残として、楼門東側の広場に、関白秀吉公が水を汲んだと伝わる「太閤井戸」があり、一の鳥居西側の茶室松向軒には、細川三斎公が使った井戸「三斎井戸」が、また上七軒西方寺には千利休居士が用いた「利休井戸」が今も遺されている。

この「北野大茶湯」を顕彰しようと、明治十九年には大茶湯三百年の記念献茶式が斎行され、さらに昭和十一年には三百五十年を記念する「昭和の大茶湯」が五日間にわたり催されている。菅公御神忌にあたり斎行する式年大祭「萬燈祭」においても、献茶祭や御茶壺奉献奉告祭同行列を斎行し、御祭神にお茶を献ずることが御神霊をお慰めする鎮魂と慰霊の意味をもつ重儀と位置づけられてきた。

御祭神菅公が編纂された最も有名な『類聚國史』二百巻には、お茶についても記述され、その故事を調査研究し、お茶を学問として捉え、その道を人々に示されたことが伝えられている。関白秀吉公が神社の境内でもあるこの北野の松原一帯を舞台に前代未聞の規模で大茶会を催したことも決して偶然ではなく、御祭神から連綿と続く御神縁の賜物なのである。

西方寺に遺る千利休居士が用いた利休井戸

境内に遺る太閤井戸

汗ばむ陽気の下、平安の雅厳かに第十四回「曲水の宴」斎行

和漢朗詠、白拍子舞もたおやかに
和魂漢才ならぬ”洋魂漢才“の国際色豊かな展開も

秋晴れの下、菅公顕彰 曲水の宴催行

第十四回「曲水の宴」が文化の日の十一月三日、紅梅殿船出の庭で催され、汗ばむほどの陽気の下、和漢朗詠、白拍子も舞うという当宮独特の形で繰り広げられる平安の雅の再現が観覧者を魅了した。

曲水の宴菅公顕彰委員会のメンバーでもある上冷泉家当主冷泉為人氏による挨拶があり「曲水の宴」は開幕した。

「曲水の宴」は、庭の流れに酒を入れた杯を流して飲み、兼題に即した詩を賦す雅な宴。中国から伝えられ、奈良・平安時代には宮中で盛んに催された。宇多天皇に重用された菅公は、天皇が主宰された宴に幾度も招かれ、その時に詠まれた詩文も遺されている。室町以降「和歌三神」として崇敬を集めた菅公だが、それよりずっと以前からその文才は宮中で高く評価されていた。

こうした故実に基づき、紅梅殿船出の庭の完成に伴って平成二十八年十一月三日、和魂漢才の精神を示された菅公を顕彰し、和歌だけでなく漢詩も賦す「和漢朗詠」という独特の形に加え、北野社にいたといわれる白拍子の舞を加えた当宮の特色を織り込んだ形で再興された。以後文化の日の恒例祭事となると共に春も催行されるようになり、今回で通算十四回目を数える。

紅梅殿上で、菅公作の「花時天似酔（はなのときはてんもよへるがごとし）」が朗々と詠じられ、二人の白拍子が優雅に舞い、参観者を雅の

菅公御歌の朗詠と白拍子奉納

下冷泉家当主 冷泉為弘氏

上冷泉家当主 冷泉為人氏

第四詠者
宮武 衛氏　百井 花氏

第三詠者
松浦俊昭氏　ミヤケマイ氏

第二詠者
ピーター・J・マクミラン氏　吉田まさきこ氏

第一詠者
加藤好文氏　松尾翠氏

世界に誘った。

この後、有斐斎弘道館館長の濱崎加奈子氏の解説によって流觴曲水が始まった。平安装束の詠者男女八人が二人ずつペアとなって流れに沿って座った。

漢詩を詠む男性詩人は加藤好文氏（京阪ホールディングス株式会社代表取締役会長ＣＥＯ）、ピーター・Ｊ・マクミラン氏（翻訳家・詩人）、松浦俊昭師（壬生寺貫主・唐招提寺副執事長）、宮武衛氏（京都大学大学院文学研究科）の四人。和歌を詠む女性歌人は、松尾翠氏（フリーアナウンサー）、吉田まさきこ氏（株式会社ワイングロッサリー代表取締役社長）、ミヤケマイ氏（美術家）、百井花氏（京都大学大学院文学研究科）の四人。兼題は「神」、「酒」、「紅葉」、「友」。

それぞれ流れてきた杯に口を当て、兼題に基づいた漢詩や和歌を色紙に筆でしたため、自ら作品を披講し、解説した。和歌を翻訳し世界に発信されているアイルランド出身のマクミラン氏は英語で作品を高らかに披講し、日本語で「今年の中秋の名月の夜、亡き母を思い出したことを詩にしました」と前置きして解説を加えた。英語の詩は濱崎氏が漢詩に訳して発表するという〝洋魂漢才〟とでもいうべき国際色豊かな展開となり、大きな拍手を呼んだ。

この日の京都の最高気温は、平年を六度以上上回る汗ばむほどの陽気となり、三連休初日の文化の日とあって多くの観覧者が平安の雅に見入った。

八人の詠者によって詠まれた作品の色紙は、「曲水の宴」終了後、御本殿に奉納された。

朗詠「花時天似醉（はなのときはてんもよへるがごとし）」

【詩の意味】

「曲水の宴は遥か遠くになり、その名残も絶えてしまっている。巴という字のように曲がりくねった川で、風流韻事を好んだ魏の文帝を思って雅な遊びを楽しむ」と、曲水の宴を再興した宇多天皇を称える詩の一節。菅公の高い教養がうかがえる。

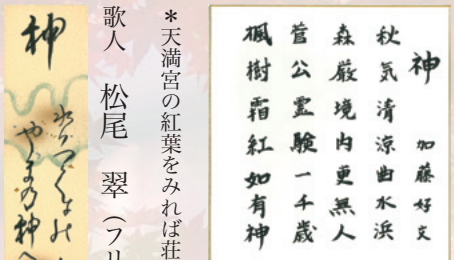
童子（花輪叡くん・伊住千鶴さん・清水初音さん・堤すみれさん）

平安王朝文化のみやびを現代に

第十四回曲水の宴

一番　神

詩人　加藤好文（京阪ホールディングス株式会社代表取締役会長ＣＥＯ）

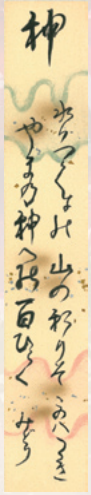


秋気清涼曲水浜
森厳境内更無人
菅公霊験一千歳
楓樹霜紅如有神

秋気清涼たり　曲水の浜
森厳たる境内　更に人無し
菅公の霊験　一千歳
楓樹の霜紅　神有るが如し

＊天満宮の紅葉をみれば荘厳な雰囲気に神の存在を感じるという詩人の思いが詠み込まれた詩。

歌人　松尾　翠（フリーアナウンサー）

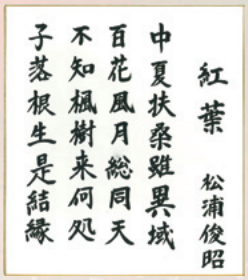


外国の　山の祈りぞ　木の葉焚き　山の神への　一日開く

＊歌人が体験した、ヒマラヤの山中で自然の前には神に祈ることしかできない、木の葉を炊くことで山神への一日の祈りを表す現地の人々の生活に寄り添い詠んだ歌。

三番　紅葉

詩人　松浦俊昭（壬生寺貫主／唐招提寺副執事長）



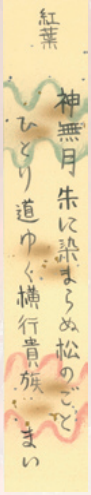
中夏扶桑雖異域
百花風月総同天
不知楓樹来何処
子落根生是結縁

中夏　扶桑　域を異にすと雖も
百花　風月　総て天を同じくす
知らず　楓樹何れの処よりか来たるを
子落ち根生ずるは是れ結縁

中国と日本は地域が異なっているが、
草花も美しい景色もすべてこの世界に共にあるものだ。
このカエデの木がどこから来たのかはわからないが、
ここに実が落ち根が生じるのも何かの縁。

＊僧侶である詩人が、鑑真和上が共結来縁と仰った、新しいご縁を紡ぐ精神をカエデの成長に重ねて詠んだ詩。

歌人　ミヤケマイ（美術家）

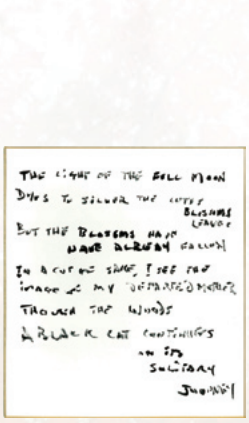


神無月　朱に染まらぬ　松のごと　ひとり道ゆく　横行貴族

＊紅葉が一斉に朱に染まるなか、稀に染まらぬままで佇む一様の葉に、人と同じ道を選ばず歩む歌人自身の人生を重ねて詠んだ和歌。

二番　酒

詩人　ピーター・J・マクミラン（翻訳家・詩人）



残花已落仲秋辰
三五月光蓮葉銀
欲飲杯中先妣影
畜猫独往寂無人
散り残った花もすでに落ちた中秋節の今日、
十五夜の満月がハスの葉を銀色に照らしている。
酒を飲もうとすると杯に亡き母の面影が映ったが、
私の飼い猫が独り行くだけで人の気配はない。

残花已に落つ　仲秋の辰
三五の月光　蓮葉　銀なり
飲まんと欲すれば杯中　先妣の影
畜猫独り往き寂として人無し

＊百人一首の翻訳等を手掛けた筆者がまずは英語の詩で中秋の名月の日に心にかかった家族への思いを詠み、その心を漢詩の形式に落とし込んだ一連の詩。

The light of the full moon dyes to silver the lotus blossoms leaves
But the blossoms have already fallen.
In a cup of sake, I see the image of my departed mother
Through the woods a black cat continues its solitary journey.

歌人　吉田まさきこ（株式会社ワイングロッサリー代表取締役社長）

葡萄葉も黄金色とふ酸半の醸されてゆく暗き地下蔵

＊ワイングロッサリーを営む歌人が、シャンパーニュ地方で見た景色を思い浮かべつつ、シャンパンへのあふれる思いを詠んだ歌。

四番　友

詩人　宮武　衛（京都大学大学院文学研究科）

昔時常見玉堤辺
今者重逢賀茂川
莫怨東西暫離別
願君与我保天年

昔時　常に見る玉堤の辺
今者　重ねて逢ふ賀茂の川
怨む莫かれ東西暫らく離別するを
願はくは君　我と与に天年を保たん

昔、多摩川のほとりでいつも会っていた友と、
今、賀茂川の河原で再会している。
東と西にしばし離ればなれなのをどうか恨まないでほしい、
そして君には私とともに天寿を全うしてもらいたい。

＊進学により東京から京都へと住まいを移した詩人が、場所は変われど変わらぬ友情を河原の風景に託しつつ詠んだ詩。

歌人　百井　花（京都大学大学院文学研究科）

女郎花に相似し我が友面影は一季ならず永遠の華やぎ

＊大学を卒業しあまり会えなくなった友人とのそれでも変わらぬ友情を思い詠んだ和歌。

北野と酒造の歴史

菅公ゆかりの梅花の信仰 天神信仰に繋がる文化祭典

「全国梅酒まつりin京都２０２３」開催

北野の地は創建以来、境内東側に松葉川、西側に紙屋川が流れ、境内神域で清められた水は御所の御用水として用いられていた。美しい水が豊富な北野界隈は、酒麹の生産販売が盛んで、京都の酒麹作りの中心的役割を担っていたため、当宮は酒屋や酒造者の崇敬が篤い神社でもある。また梅花は御祭神菅公がこよなく愛された花として天神さまの象徴となっている。このような御神縁の中で、平成二十九年より「全国梅酒まつり」が当宮で始まった。

本年も「全国梅酒まつりin京都２０２３」が十一月十六日から十九日までの四日間当宮で開催され、「史跡御土居もみじ苑」の開催中でもあって連日全国から梅酒ファンが訪れ、試飲会場の文道会館ホールや即売会場の絵馬所は大賑わいの盛況を見せた。

梅の名所である当宮で全国の梅酒を飲み比べして、梅酒の普及を図ろうという梅酒愛好家組織、一般社団法人梅酒研究会（明星智洋代表理事）の主催。平成二十九年に第一回を開き、コロナ禍で二年の休止があり、今回は通算五回目の開催。昨年まで「厳選」梅酒とし、コンクール入賞梅酒に限っていたが、今年から「厳選」の冠を取った全国まつりにしたため、試飲・販売点数は倍増した。

オープンに先立ち、十六日午前九時から出品する梅酒を御神前に供え梅酒奉納式が斎行され、明星代表理事が玉串を捧げ、梅酒の普及、関係者の無病息災を祈念した。

この後、絵馬所前でオープニングセレモニーが行われた。医師で日ごろから梅酒の効用を力説する明星代表理事が「今年は〝厳選〟の名を取ったので、昨年の倍もの梅酒を試飲したり買ったり出来る一大イベントになった。梅酒研究会は、梅酒を飲んで健康になってもらい、梅酒を国酒にしたいと願っている」と、挨拶され、宮司も菅公の梅を詠まれた歌三首を並べ、当宮と梅との強い縁を紹介し、「梅は昔から薬草として使われ、正月の縁起物、大福梅は平安時代、病に罹られた天皇が、梅を煎じて飲まれて快癒したとの故事に基づくもの。また、室町時代、当宮神人に麹造りの特権（北野麹座）が与えられたことから酒ともご縁がある。梅酒は日本文化であり、全国に広がっていくことを願っている」と、挨拶した。西脇隆俊京都府知事、門川大作京都市長が祝辞を述べた後、テープカットが行われ、梅酒まつりがスタートした。

試飲は文道会館、また即売会は絵馬所で行なわれ、それぞれ行列が出来るほどの賑わいを見せた。とくに文道会館の試飲会場は、日本全国の酒蔵から出品された約百七十品種の梅酒を小さなカップで飲み比べする梅酒愛好者でごった返す賑わいとなり、熱気で沸き返った。

なお、前日の十五日、紅梅殿で十月に東京で行われた「全国梅酒品評会」に出品して入賞した梅酒の発表と表彰式が行われた。

全国梅酒まつり in 京都オープニングセレモニー

梅酒飲み比べ会場の様子

受賞した梅酒も並ぶ販売会場

金賞・銀賞・銅賞それぞれ受賞された酒造会社の皆様

KYOTO NIPPON FESTIVAL

錦秋の史跡御土居 今年も美しく
天正の大茶湯の歴史舞台で繰り広げる文化行事の数々

錦秋に彩られた史跡御土居と国宝御本殿

〈菅公御歌〉
このたびは
幣もとりあへず手向山
紅葉の錦 神のまにまに

史跡御土居もみじ苑を十月二十九日から十二月十日まで開苑した。新型コロナウイルス感染症は未だ収束には至っていないが、落ち着いた状態にあり、マスクを着用する参拝者もいる中、錦秋の美を堪能する観光客で境内は賑わった。

史跡御土居もみじ苑は、太閤豊臣秀吉公が外敵や紙屋川と鴨川の氾濫から都を守るために、天正十七年から十九年にかけて築かれた全長約二二・五キロの歴史的遺構。江戸時代に入ると次第にその役割を終え、明治初期には御土居のほぼ全てが姿を消した。現在は御土居跡地として数ヶ所現存するのみだが、当宮の御土居はそもそも境内を貫くように造られていたため、取り壊されることなく、当時の姿そのままに現在に残され、秀吉公ゆかりの歴史的遺構として親しまれる名所である。

御土居内に広がる自然美溢れるもみじ苑は樹齢四百年

夜間参拝に多くの観光客

拝観者を魅了する夜空に彩られた紅葉

を超える「三叉の紅葉」を始め、自生のもの、植栽したもの合わせて約四〇〇本のもみじがあり、見ごたえのある「錦秋の美」が苑内を彩った。

梅をこよなく愛された御祭神菅公は、梅と同じく紅葉にも心を寄せられ「このたびは幣もとりあへず手向山紅葉の錦神のまにまに」の御歌は百人一首でも詠まれる名歌として有名である。来る令和九年の菅公御神忌千百二十五年半萬燈祭に向けた境内整備事業の一環として、平成十九年より北野天満宮講社（会長裏千家千玄室大宗匠）の長年にわたるご助力により整備され、今では菅公の御心が宿るもみじの名所として、全国より来宮される多くの参拝者に親しまれている。

コロナ禍も四年目を迎え、未だ完全な収束を迎えていないものの、政府や自治体の規制も緩和され、全国より多くの参拝者が京都のもみじ狩りに訪れた今秋。特にライトアップが始まった十一月十一日ごろからは土日を中心に昼夜を問わず大勢の参拝者が来苑した。

今年の紅葉は、気候の影響もあり色づきが例年より遅く、参拝者のピークは二十五・二十六日の週末で、もみじ苑入口には長蛇の列ができ、苑内の茶店も茶菓子と一服を楽しむ人々で賑わった。

また七五三詣でご祈願を受けた和服姿の子ども連れも多く、規制緩和を受け、日本に観光に訪れている海外の観光客姿もたくさん見られた。ベトナム人の友人を連れてきたという京都市内の男性は「心休まる風景に触れて、感動しています」と、もみじを背景にスマートフォンでの撮り合いに興じていた。

開苑時間は午前九時からだが「旅程の都合上、その時間帯より早く観光客にもみじを楽しんでもらいたい」との旅行会社からの思いもあり、通常より一時間早く、神職の案内でもみじ苑や宝物殿を巡る特別拝観コースも設けられた。

竹灯籠で照らし出されたもみじ苑（JR 東海企画「光の京都」）

紅葉のコントラスト美しく 紙屋川

史跡御土居「もみじ苑」公開中　多彩な奉納行事で賑わう

芸能興行発祥の北野の地で、上方落語の祖
「露の五郎兵衛」一門が碑前祭参列
文化芸能の神「天神さま」への篤い信仰

落語の露の五郎兵衛一門による「北野天神もみじ寄席」が十二月三日、文道会館ホールで行われ、初代露の五郎兵衛の功績と往時を偲び、恒例の「もみじ寄席」を開催。満席の会館は笑いの渦で包まれた。

当宮は江戸時代前期、上方落語の祖といわれる初代露の五郎兵衛が境内で落語をした場所であり、一の鳥居すぐ右側にはその顕彰碑が建立されている。

それより以前、慶長年間には歌舞伎をどりの祖である出雲阿国が京都で初めて歌舞伎をどり（ややこ踊り）を披露した場所、そして天正年間には関白秀吉公と千利休居士が開催した「北野大茶湯」の舞台がここ北野の松原であった。日本の芸能興行が発信されてきた歴史的舞台「北野」において、上方落語を大成した露の五郎兵衛もまた落語文化の礎を北野天満宮で築いたのは決して偶然ではなく、文化芸能の神である天神さまへの篤い信仰があったからなのである。こうした御神縁から露の五郎兵衛一門が、毎秋「もみじ寄席」を開くのが恒例となっている。

この日は、露の陽照・紫・ききょう・眞・新治・新幸・瑞・団四郎と続き噺家生活五十周年という都をトリに新鋭、古参の九人が新作や古典の落語で一席伺い、満員・札止めのホールは爆笑の渦となった。

開演に先立って出演者は御本殿に参拝した後、初代露の五郎兵衛碑前で斎行された碑前祭に参列し、一門の益々の隆盛を祈願した。

当宮参籠で開眼
天神真楊流など古武術四流が演武奉納

当宮への参籠が契機となって出来た天神真楊流柔術など古武術四流の演武奉納が十一月二十五日、紅梅殿であり、縁日の参拝者らが迫真の演武に見入った。

天神真楊流の流祖は江戸時代後期の紀州藩士・磯又右衛門。楊真流と真之神道流というという二つの柔術を修業した人で、天神信仰篤く、当宮に参籠祈願し、新しく天神真楊流を開いた。こうした経緯から同流では、毎秋、もみじの時期に当宮で演武の奉納をしている。

相手の動きに合わせて無理なく相手を制するのが極意とされており、組んだ瞬間に投げる演武を披露し、拍手を浴びていた。また、朝山一伝流体術・甲源一刀流剣術・正木流万力鎖術という古武術の演武奉納も行われた。

講道館柔道の創始者、嘉納治五郎も天神真楊流の柔術を学んでいる。

京都連歌の会
「もみじ連歌会」張行

京都連歌の会は十一月十九日、もみじの季節の恒例となっている「もみじ連歌会」を紅梅殿で張行し「賦何人連歌」で詠まれた四十四句の連歌懐紙を奉納した。

菅公が「文道大祖風月本主」と崇められたことから当宮は和歌だけでなく連歌の神としても篤く崇敬され、とくに中世から江戸時代にかけては連歌会所が設けられ、御神前に奉納する聖廟法楽の連歌会がしばしば行われてきた。

京都連歌の会は、こうした伝統を引き継ぎ、かつての連歌会所址である「連歌会所の井戸」の横にある紅梅殿において、春には「梅ヶ枝連歌会」、秋には「もみじ連歌会」を開くことを恒例としている。

この日は青空の広がる小春日和の好天となり、紅梅殿前に設営された椅子に座って連歌会の模様を興味深そうに見つめる参拝者が相次いだ。

上七軒歌舞会
日本舞踊奉納
もみじ苑舞台であでやかに

上七軒歌舞会の舞妓による恒例の日本舞踊の奉納が、ライトアップ初日の十一月十一日午後五時から史跡御土居内のもみじ苑舞台で行われた。

舞妓三人が、ライトに照らし出された色づき始めのもみじを背に「もみじの橋」「重ね扇」「京の四季」の三曲をあでやかに舞い、もみじ狩りの参拝者や外国人観光客に優雅なひとときを演出した。

連歌の京都　北野―そして東と西

京都連歌の会顧問　光田　和伸

このたびの聖廟法楽、宮司より発句を頂戴し、まず驚きました。「風月本主(である菅公)は」と伝奏の形こそ取っていますが、心の基であり国都であるという強い言い切り、加えて季題さえ離れた自在の姿は、まさしく和歌連歌でいう夢想の句―お神様が夢のなかにお立ちになって宣せられたものです。このような座に連なることは、連歌師には一生に一度あるかないかという栄誉です。

景行天皇の御代、日本武尊（やまとたけるのみこと）は勅命により東に旅して旅中に崩じました、御遺作「にひばり筑波をすぎて」により連歌を「つくばの道」とも呼びます。筑波山はまた歌垣の故地でもあり、重ねて連歌ゆかりの聖地となっています。

さて菅公が西に旅して弥果ての地に崩じられたことを思いあわせると、神となられた古代二柱の英傑が、王権を敬う日本という一国の心の形を決め、ここ都の北野の地において聖廟に代々連歌を献じてきたことの深いゆかりを思わずにはいられません。脇句は、その心をもって御夢想の発句に低頭しています。

連衆のうち花、脩両名は府下南丹高校二年生です。「千歳に坐る織部燈籠／子に合はす歩幅は七つ五つ三つ」の付合は、七五三詣でに賑わう玉垣の当日を詠じて忘れがたい作品になりました。また「ひぐらしのひとりで鳴くや空は雨」と花の句は韓国全南大学校の金貞禮教授の句です。氏は韓国を代表する芭蕉研究者で、まずハングルで五七五を詠み、みずからそれを日本語の五七五に直しました。

菅公を讃えるこの座に連なりたいと、ただそのための急ぎのとんぼ返りでした。

注　ハングル表記は以下のとおりです。

ひぐらしのひとりで鳴くや空は雨
　저녁매미가　혼자서 우는구나　하늘에는 비

海こえて苑にうれしき花の宵
　바다 건너와　연회 즐거워라　벚꽃 핀 밤

北野天満宮聖廟法楽

令和五年十一月十九日
於　北野天満宮紅梅殿
　　宗匠　大村　敦子
　　執筆　徳久　青檜

賦何人連歌

初折表

風月本主（くわんこう）は文化の基（もと）なり国都（こくと）なり　重十九
あればある世ぞつくばねの道　敦子
白珠を貫く玉の緒に霜冴えて　満千子
なほ染めあかで木々にしぐるる　博介
笹鳴きの下枝（しづえ）いづこへつたふらん　まり絵
かすかに香るもののゆかしさ　かおり
有明もしづかに待てり山の宿　貞子
水落ちて巌すさまじからぬ　景子

初折裏

つねならぬ野分は耳も順ひて　和行
綾の鼓の音いかに聞く　稔
いらへなき文は送れど雲が空　亮子
悔しくぞ胸あたためし恋　佐代子
鳥すらや翼ならべて添ふものを　青檜
国ざかひ越えゆくや弱法師　満千子
さみだれはいつを晴れ間と分くべしや　敦子
絶え絶えもれてうれし糸竹　まり絵
秋や友千里の外（ほか）に何を思ふ　博介
無きよりけふのみごと望月　貞子
近江の海袖の露にぞ通ふらむ　かおり
川は帰らぬ春の深山路　和行
花映す水に我が身もやや揺れて　景子
鳥雲に入り都はるけし　正純

名残折表

いにしへの茶の湯を偲ぶ北野松原（かみのもり）　楠彦
千歳に坐る織部燈籠　良太
子に合はす歩幅は七つ五つ三つ　花
峠道抜け夏の里山　脩
ひぐらしのひとりで鳴くや空は雨　貞禮
笑へかかしよ忘られし身を　正純
受け取りし文の終はりの秋扇　佐代子
待つも待たぬもさわぐ心ぞ　亮子
月冴えて渡るかりがね音もなし　和行
しはぶきさへもからびずや君　博介
冬山の吹ぶきと消えた雪をんな　花
埋もれて遠きこの観世音　貞子
光さす家はいづこかたづね来む　亮子
竹のみ折りてしるべするらし　正純

名残折裏

童べの声ある方に虹の橋　まり絵
夕立雲のはつかにほへる　かおり
古笠と風を袂に急ぐ旅　佐代子
選ばぬ道のふるさとに似る　景子
やさしさを伝へて叶ふ穏し日々　良太
手にのせ数へ物種をまく　脩
海こえて苑にうれしき花の宵　貞禮
牛にもこちの永遠（とこしへ）の宮　青檜

句上

橘	重十九	一	
大村	敦子	二	
服部	満千子	二	
片山	博介	三	
図子	まり絵	三	
押川	かおり	三	
河合	貞子	三	
丸山	景子	三	
中村	和行	三	
関本	稔	一	
森	亮子	三	
新田	佐代子	三	
徳久	青檜	二	
西田	正純	三	
東川	楠彦	一	
中澤	良太	二	
中澤	花	二	
西村	脩	二	
金	貞禮	二	

日本の伝統文化を世界に発信　新しいエンターテイメントとの融合

『KYOTO NIPPON FESTIVAL』四年ぶりに開催

『刀剣、紅葉に染まる』をテーマに

宝物殿特別展『歴史と美、刀剣物語』

日本の伝統文化と新しいエンターテイメントの融合を合言葉に『KYOTO NIPPON FESTIVAL 2023』（京都日本フェスティバル）が「刀剣、紅葉に染まる」をテーマとして、十月二十八日から十二月三日まで宝物殿を中心に神楽殿、史跡御土居内の茶室「梅交軒」などで開かれ、若者や日本の文化に触れたいとする外国人参拝者らで連日賑わいを見せた。

京都日本フェスティバルは、「日本文化の礎ともなった天神信仰の発祥地である当宮から伝統文化の魅力やポップな新文化を世界に発信しよう」と二〇一六年に始まった。しかしコロナ禍による影響でここ三年間は中止となり、今回は四年ぶり五回目の開催で、当宮所蔵の多数の刀剣類の展示を主に茶道家元池坊の立花の展示、若者らに絶大な人気を持つブラウザゲーム『刀剣乱舞』とのコラボレーションが実現し、天神信仰はもとより、刀剣の歴史や文化、魅力を発信した。

祓いと鎮めの聖地「北野」刀剣を納めた先人らの歴史と信仰を発信

平安京の北西「天門」に鎮座する当宮は、菅公の荒ぶる御神霊を鎮め奉り、世の平安を守護する神社として信仰されてきた。

歴史上、名だたる武将、あるいは武士たちが武運長久を祈願するために納めた刀剣は、百振にのぼり、この刀剣の数からも菅公の武神としての信仰の篤さが伺える。

天神信仰の中でも、知られざる武運長久の崇敬や聖地北野における祓いと鎮魂の信仰を、次世代を担う若者たちに伝えていく一つの契機にするため、宝物殿では特別展示として『歴史と美、刀剣物語』と題した企画展覧会を開催した。

華と刀剣の共演　華道家元池坊『コラボレーション生け花』

第一回目の京都日本フェスティバルから参画され、生け花を通じて、日本文化を世界に発信される華道家元池坊が、今回も『刀剣乱舞ONLINE』とコラボレーションして創られた生け花を、史跡御土居のもみじ苑内に展覧した。『刀剣乱舞』ではお馴染みで、本企画ではメインヴィジュアルにも

展示された刀剣の数々

重要文化財 太刀『鬼切丸 髭切』

華やかに KNF オープニングセレモニー開催

華道家元池坊『刀剣乱舞 ONLINE』コラボレーション生け花

なっている兄弟刀「髭切と膝丸」を、それぞれ独自にイメージされた生け花は、迫力と繊細さと美しさが融合する独自の世界観を演出し、刀剣ファンを魅了した。

「新たな技術で歴史を知る」音声案内アプリ「ロケトーン」を活用した参拝

音声や音楽を聴きながら、現実世界を散策する音声・案内アプリを活用し、当宮の境内各所を巡る「ロケトーン」を実施し、会期中、新たな境内案内を実施した。

当宮の境内には、北野の歴史や天神信仰の一端を感じることのできる箇所、あるいは朝野を問わず奉納された文化財や奉納品、歴史的遺構が数多く遺されている。このような境内各所に散りばめられた当宮の魅力を、分かりやすく手短に理解してもらう手段として、本システムを導入し、京都日本フェスティバルの企画の一つとして実施した。

音声案内には、「刀剣男子 髭切」（声優 花江夏樹さん）と「刀剣男士 膝丸」（声優 岡本信彦さん）にキャラクターボイスとして協力頂き、刀剣ファンのみならず、若い世代を中心に多くの参拝者が解説案内を聴きながら、境内各所を巡る姿が見られた。

門川市長、俳優高橋克典氏ら出席し開会式典

オープニングセレモニーは、初日の十月二十八日、紅梅殿で行われた。神若会北野天神太鼓会の勇壮な太鼓演奏で幕開けし、まず門川大作京都市長が「文化庁が京都に移転し、京都は文字通り日本の文化の都となりました。この文化行事も先導役を果たしてきたと思います。世界中が分断により悲しい出来事が次々起こっていますが、文化と観光が平和維持装置となって世界の人々の平和にも貢献し、そこに京都の役割があるのです」と挨拶。次に宮司が「文化伝統の信仰も篤い天神さまの御神域で、四年ぶりにこの行事が開かれたことは大変嬉しく思います。当宮は日本文化の礎を築いてきた京都の中で、天神信仰を基に文化を育み、発信をしてきた中心的な神社です。令和の時代に合わせ、古きものと新しいものとを融合させ、日本文化の魅力を世界に発信していければ幸いです」と挨拶。加えて開催に向け取り組んだ諸団体に謝辞を述べた。

さらに華道家元池坊の池坊専好次期家元が「池坊は初回からこのフェスに参画させて頂いております。今回は若手男子グループ・イケノボーイズが、室町時代から続く立花という形式で〝刀剣乱舞〟の刀に負けない切れ味で生けていると自負しております。多くの方々に日本の美と心を味わって頂きたいと思います」と挨拶。ソニーミュージックソリューションズ代表取締役執行役員会長の志田忠彦氏も「ソニーミュージックグループとして、文化と技術を共演させ、京都文化の魅力をしっかりと発信させていきます」と話され、今回の行事の見どころなどを紹介した。

また、和服姿で登場のスペシャル応援ゲスト、俳優の高橋克典氏が「意義あるイベントに携わることが出来て光栄です。北野天満宮へは過去何度も参拝していますが、ドラマチックな照明の演出がされている宝物殿での刀剣の展示は素晴らしく、今後の俳優人生にどう生かしていくかを考えながら拝見しました」と笑顔一杯の挨拶をされた。『刀剣乱舞ＯＮＬＩＮＥ』の原作プロデューサー、小坂崇氣氏も宣伝隊長の「おっきいこんのすけ」ともども壇上から盛り上げ、ファンの大きな拍手を浴びていた。

若い世代を中心にロケトーンなどで境内を巡る参拝者

オープニングセレモニー和太鼓奉納『神若会 北野天神太鼓会』

京都 平安京の天皇
御神忌 千百二十五年
半萬燈祭
未来へつなぐ誠の心
令和9年 2027

菅公御神忌千百二十五年半萬燈祭記念事業
主催：《鬼切丸 髭切》太刀拵え奉納プロジェクト実行委員会
（北野天満宮×京都女子大学×KOGEI Next）

重要文化財《鬼切丸 髭切》太刀拵え奉納プロジェクト始動

鬼切丸　別名 髭切

萬燈祭における文化財継承の伝統

創建以来、当宮では式年大祭斎行とともに、御神宝や文化財の研究と修繕、保存を一連の取り組みとして行い、当宮の文化伝統を未来に繋いできた。令和九年（二〇二七）に迎える千百二十五年半萬燈祭ならびに宝物殿百周年に向け、萬燈祭ごとに行われてきた御神宝の「再調査・研究・修繕・保存」の伝統にならい、この度《鬼切丸 髭切》太刀拵え奉納プロジェクト実行委員会を組織し、当宮所蔵の最古刀であり、武神として崇敬される天神さまを象徴する重要文化財 太刀 銘安綱《鬼切丸 髭切》の太刀拵えを制作し、奉納するプロジェクトを始動した。

失われた《鬼切丸 髭切》の太刀拵えを新たに制作

「拵え」とは、刀身を納める鞘、手で握る柄、柄を握った時に手が刀身の方へ滑らないように施す鍔などからなる、刀身の外装のことである。伝説の太刀ともいえる《鬼切丸 髭切》には、残念ながら現在この「拵え」が備わっていない。そこで本プロジェクトにおいて、現代最高の技術を使い、鬼切丸 髭切の歩んできた歴史を鑑みながら、令和の時代にしか作ることのできない唯一無二の「拵え」を制作し、半萬燈祭にさきがけ令和八年春に北野天満宮に奉納することを目指している。

本事業は、武道の神・技芸の神としての御祭神を顕彰するものであり、現代における勧進の形を模索した結果、クラウドファンディングによりその意義を広く世に問い、賛同者による支援のもと行うことを目指した。多くの人々に《鬼切丸 髭切》の太刀拵え制作という一大文化事業に主体的に携わっていただくことで、末長く御神宝・文化財を後の世に受け継いでゆく基盤を整備することにもつながると考えている。

拵え奉納という伝統

当宮には、加賀前田家より萬燈祭ごとに奉納された太刀拵えが五振あり、そのうち四振は前田家所有の名刀に新たに当代最高峰の職人らによる拵えを制作して合わせて奉納する形をとっている。またちょうど百年前の半萬燈祭のおりには、刀身と華やかな拵えとが奉納された。

御本殿の修造とともに豊臣秀頼公よりご奉納いただいた太刀國広には、当宮

を象徴する松と梅の意匠が散りばめられており、特別な思いを持って制作されたことが伺える。このように、萬燈祭には名刀や新調した「拵え」を奉納するという伝統がある。

令和九年（二〇二七）の半萬燈祭では、拵えの失われた《鬼切丸 髭切》の太刀拵えを制作し奉納することで、この伝統を継続したいと考えている。

北野天満宮×京都女子大学×KOGEI Next 環境に配慮した素材を使用した史上初の太刀拵え

当宮には、天正十二年（一五八七）に豊臣秀吉公が催した大茶会である北野大茶湯の会場となり、江戸の最初期に出雲の阿国が初めて歌舞伎をごりを上演するなど、新しい文化や芸術をいち早く取り入れ庇護する土壌がある。

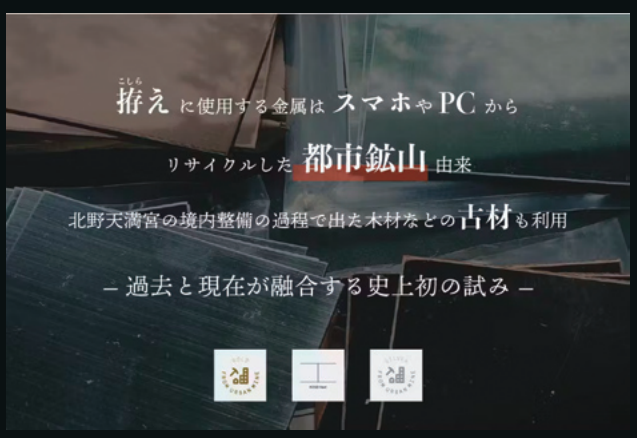
この度の太刀拵え制作には、「工芸を未来へ」を掲げて活動する超絶技巧を持つ日本の工芸作家二十名からなる非営利のアーティスト集団「KOGEI Next」ならびにKOGEI Nextのアドバイザーであり、工芸文化史が専門の京都女子大学教授前崎信也氏の率いる前崎研究室の大学生らと連携し、世界トップレベルの工芸家や職人たちによる高い技術と、次世代を担う学生たちのアイデアをもって、SDGsという新たな世界的潮流をふまえ環境に配慮した令和ならではの拵えを制作していきたい。

塩見亮介《白銀角鴟面附白絲縅兜袖》（KOGEI Next展2022出品作）

※使用している銀は全て「都市鉱山」由来／KNF2023特別展にて当宮宝物殿で展示

見立漆器 刀 草加蒔絵

当宮の境内整備の過程で出た木材や金属などの古材、そしてKOGEI Nextが進める「都市鉱山」由来の金属素材も制作に活用し、過去と現在がひとつとなる「拵え」の誕生を目指す。



記者発表

十一月二十九日（水）、本企画の趣旨を広く世に知っていただくため、本プロジェクト実行委員会が一堂に会し記者発表を行った。制作・運営を担当する北野天満宮、京都女子大学、KOGEI Nextの主催と制作を担う作家の一人である若宮隆志氏らが出席し、萬燈祭ごとに行われてきた文化・伝統の継承の文脈において本企画が運営されていくことを詳細に発表した。

鬼切丸 髭切を展示する中で、所蔵する当宮に対し鬼切丸 髭切の保存に少しでも協力したいという驚くほど多くのお声を頂戴してきた。鬼切丸 髭切に寄せられる思いはまさに新たなる信仰と呼べるものとなっており、多くの方々の参画のもと記念事業を行い未来へ繋ぐ新たなる拵えを制作し奉納して参りたいと考えている。

【令和の勧進】重要文化財《鬼切丸 髭切》太刀拵え奉納プロジェクトご支援のお願い

令和五年十一月二十九日～令和六年一月二十五日まで、本プロジェクトへのご支援を呼びかけるクラウドファンディングを実施しています。様々なお礼の品もご用意しておりますので、ぜひ下記特設サイトへアクセスし、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

天神さまと私

京都市長　門川 大作 さん

今号は、四期十六年間にわたり京都市政の舵取りをされ、次の市長選への不出馬を表明された門川大作京都市長をお迎えし、千年の都、京都の文化力などについて宮司と話しあって頂いた。

（構成・編集部）

宮司　四期十六年といえば、私の宮司奉職期間とほぼ重なります。その間、京都の歴史・伝統・文化の振興に力を注がれ、その素晴らしさを国内外に強く発信され私も多くの享受を戴きましたことに敬意を表します。

門川　ありがとうございます。皆様のお陰です。

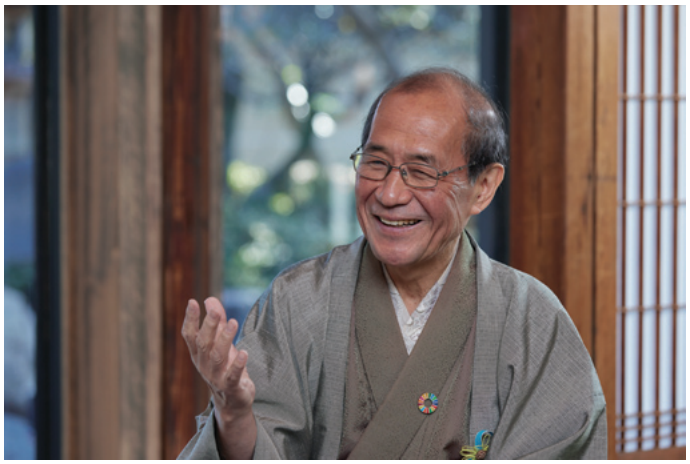
景色が変わった上七軒通の電柱地中化

宮司　身近なところでは、門前町の上七軒通は石畳となり、電柱も地中に潜りました。おかげさまで花街の観光客は、インバウンドも増え、上七軒の人たちともども喜んでいます。改めて京都の歴史・伝統・文化についての考え方をお聞きします。

門川　上七軒の電柱地中化、実は桝本前市長の時の構想なんです。竣工時、私も歩かせて頂きましたが、景色が変わりましたね。何か新たな価値が伝統の上に創造されたように感じました。地域と共に、文化経済界も協力下さいました。その地域固有の文化、歴史、そしてコミュニティー、そこに観光をプラスすると固有文化の価値を再認識し、継承する力になるんですね。

宮司　なるほど……。

門川　ＵＮＷＴＯ（国連世界観光機関）とＵＮＥＳＣＯ（国連教育科学文化機関）主催のもと、コロナ前の二〇一九年に京都で観光と文化の国際会議が開かれ、京都の取り組みを発表しました。「観光を明確な理念の下でマネージメントすれば固有の文化も産業も活性化し、地域も豊かになり、観光客の満足も高められ、持続可能なものになる」ということを。今、着物を着て歩く人は旅人が多い。和食や町家の良さを求めて来るのも旅人です。観光がその良さを気づかせてくれます。この発表、「京都モデル」として評価されたんです。もう一つ、時期・時間・場所の三つの分散化を進めています。かつて京都は十一月と二月の観光客の差は三・六倍でしたが一・三倍までに標準化、観光業に働く人が季節労働から通常労働になり、安定雇用になったことも評価されました。



宮司　神社は地域の人たちの憩いの場でもあり、観光客にもその安らぎを分け与えるべく日々腐心しているところです。

ソサエティーの語源は「神社に集う」こと

門川　幕末から明治期に外国からいろんな言葉が入ってきて、それに漢字を当てましたね。その中の一つがソサエティーですが、これを社会とした。「社に会う」。これってすごいですよ。ヨーロッパなら広場に集まって議論し、町の未来を語り合って実行する。日本の場合、鎮守の杜、神社に集まり、祖先を敬い、そして子孫に思いを致し、自然に感謝し、共によりよく生きてよりよい町を

作っていこう。こういう意味を込めてのソサエティー、社会なのですね。当時は神仏習合ですから、ここの天神さんも、いろんな地域の神社やお寺が大きな役割を果たしてこられたんです。そういう良さを伝え、再認識してもらうのが観光でありたいと願っています。

宮司　ありがとうございます。私も御祭神にゆかりのある文化を発信していこうと埋もれていた旧儀を復興させながら様々取り組んで参りました。文化の奥深いところに信仰があります。そして産業があるんですね。市長さんの就任以来、仰っていることは私の思いと相通じます。社会という言葉にしても、日本人の古代からの精神に通じます。その原点はコミュニティーですね。菅公精神の「和魂漢才」は明治になって「和魂洋才」の言葉に置き換えられ、色んな文化や信仰などを抵抗なく受け入れたと思います。そういう日本人の民族性は素晴らしいと思っています。

門川　宮司は千百年を超える天神さんについて深く研究され、わかりやすく語られ、そして様々な形で催しを復活されておられ、私も学ばせていただいております。それにしても梅の天神さんは昔から有名ですが、もみじの天神さん、また、最近は刀剣の神社としても名が出ており、すごいですね。

宮司　いえいえ、元々あった信仰なので元をたどれば一緒ですよ。十年ほど前、ハーバード大学で天神信仰について講演してくれ、ということでアメリカに行きました。私が書いた草稿を田邉親男先生（当宮責任役員、親友会グループ会長）が英訳してスピーチなされた後のディスカッションにおいて、西洋的にはなぜ悪魔（怨霊）が神になるんだということで、理解して頂くのが大変難しかったですよ。当宮中庭には源頼光の四天王の筆頭・渡辺綱奉納と伝わる石燈籠（国の重要美術品）がありますが、天神さまの上空で美女に化けた鬼の腕を切り落としたことで怨霊が清められます。菅原大神が天神に昇華されるのもこの場所です。そこには罪人でも六道転生で清められ良い人として復活するという天神信仰固有ともいうべき輪廻の世界観があります。

門川　すごい世界観、人間観ですね。

様々に広がった天神信仰

宮司　ですから先ほどの刀剣の信仰で申しますと、多くは平安時代から繋がるものです。渡辺綱が鬼を斬った鬼切丸（別名髭切）の太刀（平安後期、重文）、豊臣秀頼公奉納の太刀（重文）、加賀前田家奉納の鎌倉や室町時代の太刀（重文）などなど奉納された約百振の太刀を収蔵しています。怨霊から学問や芸能の神、そして武道の神として広がっていった一面があると思います。先年、比叡山とともに北野御霊会を再興しましたが、元々あった天神信仰なんです。

門川　色々繋がっているんですね。お話しをお聞きすれば、次々と勉強になります。

宮司　先ほど文化と観光を融合させてマネージメントすれば、その地域固有の産業が持続可能なものになると仰いましたが、もう少し具体的に知りたいです。

門川　伝統産業からイノベーションを起こして京都で世界ナンバーワン、オンリーワンの企業がたくさん誕生し、活躍している。そのほとんどが伝統産業からの派生ということです。陶磁器がセラミックになったり、お酒・発酵食品がバイオテクノロジー、創薬になったり、印刷とか染め技術が半導体製造装置に、鳥獣戯画絵巻がマンガ、アニメの原点になるなど、そういうことを含めて京都の歴史と文化、大学、研究機関、それから観光をマネージメントすることによって偉大な力が発揮できると思っています。

宮司　市長は長年、世界歴史都市連盟の会長も務められていますが、この連盟の活動と、どのように関わられたのですか？

門川　京都市は四十五年前、世界文化自由都市の宣言をしています。世界の人々が人種、宗教、社会体制の違いを超えて平和のうちに集い、世界平和と人々の幸せに貢献しようというものです。世界歴史都市連盟はそれに基づくもので、四年ごとに選挙ですけど京都市長がずっと会長です。私が市長になった時

は九十都市ぐらいでしたが、今や百二十八都市に増えました。世界歴史都市というのは人類の、また、その地域の叡知の結晶です。二年に一回総会を開いて、その時々の課題に真正面から取り組んでいます。歴史都市はたくさんあっても、京都は千年を越えて都市の営み・文化が継承発展している。疫病や自然災害、戦乱を乗り越えるたびにより魅力的な街になった。こんな都市は世界で稀有だと信頼され、役割を求められていることを実感します。

宮司　そのお話、私も重く感じとっています。伝統のある古い街であっても常に新しい文化や様式を取り入れていますから京都は決して古い街ではないですよ。

門川　その通りですね。伝統とは革新の連続、市民も新しいもの好きですよね。

喜ばしい文化庁の京都移転

宮司　でも伝統文化の大切さは言わなくてもみんなわかっています。文化庁の京都移転は大変な喜びでした。

門川　文化庁が京都へ来て文化と観光、もう一つは食文化という二つの推進本部が立ち上がりました。やはり政治・経済中心の東京、外交を含めて京都は日本文化の拠点都市となりました。文化の都、ものづくりの街、大学の街、イノベーションの街として国とも連携しながら全国津々浦々と繋がって役割を果たしていかねばなりません。同時に世界とも繋がる、さらに未来へ繋ぐ。

宮司　なるほど。

門川　毎日のように文化庁の都倉長官とお会いする機会がありますが、京都に伝わる日本の生活文化は偉大だと仰います。五月の連休に引っ越してくれば、夏越祭にあちこちで出合い、水無月を食べる。しばらくするとまた色んな祭がある。生活の中に伝統的な文化があり、それがどんどん進化している、と感動しておられました。

宮司　ともかく文化庁の京都移転はうれしいですよ。市長の口からは言いにくいでしょうが、門川市長の時に移転したということは記憶に残ります。

門川　いえいえ、今まで多くの方が努力に努力を重ねて頂いた結果ですよ。

宮司　市長のプロフィールを拝見しますと「人間浴。仕事を楽しむ」とありました。市教委の職員時代も朝から晩までよく働かれたと伺っています。仕事を楽しむコツや心構えというか、どう仕事と向きあってこられたのか、お聞きします。

不平・不満を受け止め、浄化する力が大切

門川　よく「門川さん、休みないんやな」と言われますが、「いや、私、毎日休んでいます」と答えています。私が人と話しをする。これを楽しみ思えば労働ではないですよ。もう一つ、人間浴ですが、人というのは太陽、自然の力を浴びて生かされ生きています。と、同時に人間の力を浴びることが学びになります。激励や心の通い合いもあるけども時に怒りや罵詈雑言も受け止めねばなりません。その時、どういう姿勢で受けるかが大事です。うちの父がよく「人間はゴミ箱になるのが大事や」と言っていました。人々の苦情や不平・不満を全部受け止めて、それを浄化する力を持つのが一番大事やと言っていたんです。最近の傾聴とかカウンセリングも同じです。しんどいこともたくさんあります。しかし、その人の不平不満に向き合ってみれば勉強になります。これを自分に言い聞かせようと思い、あえて人間浴という言葉を使って仕事を楽しむことにしたんです。この十六年間、ほとんど休みなし。コロナで十日間、インフルエンザで三日休んだぐらいでしょうか。神さん、仏さん、父母家族が守ってくれたんだと思っています。

宮司　本当にご苦労さまでした。好きな言葉の「共汗」にも繋がりますね。

門川　教育委員会で長年仕事をしてきたところから出てきた言葉です。親が悪い、家庭が悪い、学校が悪い、地域が悪い。そんな言い合いをしていたって学校も子どももよくならない。子どもを真ん中にして、お互い足りない所を足し合って、よくするためにみんな汗をかこう、とやったこと。おかげで

京都の小学生の学力は全国の政令都市ではトップ。中学生も全国トップ水準です。また、コロナ禍の3年間、全ての京都市立小中学校は修学旅行を実施。凄いですね。

宮司　当宮にはボーイスカウト京都第85団の本部があり、私は育成会会長としてスカウト活動に関わっていますが、近年、団員の子どもが減少して活動の継承が難しくなり、困っているんです。長年、ボーイスカウト活動に携わっておられる先輩としてボーイスカウトへの思いがあれば……。

門川　子どもが京都第7団なので関わってきました。今、立命館のローバー隊の運営委員長、京都のボーイスカウト振興連盟の理事長もしています。今の子どもは百年生きる子どもですから、時代の変化の中でしっかり生きていくための大事なことがスカウト活動で学べると思っていますので、非常に難しい時代ですが、継承しなければならないですね。第7団は、若い人の頑張りで市内では最大になりました。

宮司　すごいですね。スカウト活動は、遊びを通じて学べることが多々あり、社会に出た時きっと役立つので、当団も頑張らねばなりません。さて、当宮では様々な文化行事などを通じて日本のみならず世界へ、日本文化、京都文化を発信してきました。今後の京都文化の展開についての思いをお聞かせ下さい。

門川　世界に繋がる千年の都であるという軸足をきっちり地につけ、多様性と包摂性を大切に、持続可能なまちづくりを進める。もう一つ、自然に感謝しながら、科学を発展させ、イノベーションをおこし、あらゆる社会課題を解決し、人々の幸せにつなげる。外の人は、京都といえばワビ・サビの世界だと思っていますけども、結構先端的で音楽も美術も前衛的なものを受け入れ創造しています。ただ、自然に感謝しながら共に歩んできた街であることを忘れてはならない、と思います。

宮司　当宮でも参考にしていく指針となる貴重なお話、ありがとうございます。京都生まれ、京都育ちの市長ですが、十六年間、当宮の神事や祭事に際し、たびたび来宮頂き感謝します。いつ頃からお参りされるようになったのですか？

瑞饋祭は思い出いっぱい　北野祭の神輿再興に期待

門川　生まれ育ったのは祇園さんの氏子地域ですが、母方の実家がこの近くでしたので、子どもの頃から年上のいとこに連れられ、よく参拝しました。

また、一時期、花園の一番東側に住んでいましたので瑞饋祭の期間中は御旅所です。うちの子どもなんか瑞饋祭の期間中、毎日風船釣りです。瑞饋祭は楽しい祭りで思い出深いですよ。令和九年には北野祭の神輿が復活するそうでワクワクしています。

宮司　ありがとうございます。おかげさまで今、準備が進んでいます。さて、当宮には毎年修学旅行生を含め多くの若者が参拝します。長年、教育畑を歩まれてきた市長さんから次代を担う若者に向けてのメッセージをお願いします。

門川　教育行政では一宗一派に偏しないのは当たり前ですが、宗教的情操は大切に。先祖を敬い、先人が大事にされてきたことをきちんと理解する力をつけることは人間として大事です。自然に感謝し、先人を敬い、一人一人を大切に、共によりよく生きて、子孫に思いを致す、こういうことをしっかりと伝えていきたいですね。

宮司　ありがとう、ございました。退任されても折々にご参拝され、高所からご指導ください。

門川　大作　京都市長（かどかわ　だいさく）略歴

一九五〇年京都市中京区に生まれる。京友禅など伝統産業のまちで育つ。立命館大学二部法学部卒。京都市教育長を経て、二〇〇八年二月より第二十六代京都市長に就任。二〇二〇年二月、四選を果たす。

徹底した「現地現場主義」をモットーに市民活動の場を駆け回り、市長就任からの訪問数は一三、〇〇〇箇所超。市民と共に汗する「共汗」と市民の視点に立った政策の「融合」をキーワードに、全国のモデルとなる市政改革を進める。

好きな言葉は「心を込めてすべてを大切に」。趣味は「人間浴」「仕事を楽しむ」。

令和再興「雪月花の三庭苑」のひとつ梅苑「花の庭」公開

見ごろの梅苑

回遊式庭苑

当宮では、来る令和九年（二〇二七）の式年大祭「菅公御神忌千百二十五年半萬燈祭」の斎行に向けて、これまでの歴史や伝統を繙く調査研究を進め、旧儀復興とともに境内整備を含む記念事業を進めている。この一連の事業の中で、一昨年に再興したのが、梅苑「花の庭」である。

「雪月花の三庭苑」で有名なこの庭は、江戸時代、寺町二条の妙満寺（現在は左京区岩倉）の「雪の庭」、清水寺の「月の庭」、そして当宮の「花の庭」それぞれが成就院（成就坊）という塔頭に造られた庭であり、かつて「京都の名勝」としてその名を馳せたと伝えられている。また当宮の「花の庭」は、江戸時代の連歌師・松永貞徳が作庭した庭としても伝わり、松永貞徳翁を顕彰し、和歌・連歌の神として崇敬される御祭神菅公の御神徳発揚の一助とするべく梅苑「花の庭」として新しく蘇らせたことも、本再興の重要な意味を持っている。

作庭の松永貞徳翁は、日本の古典に精通し、歌人としてその道を極め、連歌を学んだのち、俳諧という新しい分野を開拓した人物であり、多くの文化的遺産を遺し、その代表作の一つが「雪月花の三庭苑」であった。

雪月花は、元来中国の「白居易」の漢詩「寄殷協律」の一節に詠われた「雪月花時最憶君」からの語であり、我国においてはすでに萬葉集のなかで、大伴家持が雪月花の和歌を詠むなど、日本の美意識の基準となってきた。「白居易」は日本文学にも大きな影響を与えたといわれ、平安時代、稀代の文化人であり我国における漢詩や和歌・連歌の大祖と讃えられた御祭神菅公も、白居易に影響を受けた一人であった。江戸時代になり、先人に学んだ松永貞徳翁は、和歌連歌の神として菅公を敬仰し、「雪月花 一度に見する 卯木かな」など、様々な俳諧や和歌を遺し、自身が作庭した三庭苑には、この「雪月花」の名が冠された。

約700灯ものろうそくの灯りでライトアップされた「花の庭」

文道会館ウッドデッキから梅苑

雪月花の三庭苑　北野天満宮 梅苑「花の庭」公開

●開苑期間　令和六年二月一日（木）～三月下旬
　時　間　午前九時～午後四時（午後三時四十分受付終了）

●ライトアップ　令和六年二月二十三日（金）～三月十七日（日）
　時　間　午前九時～午後八時（午後七時四十分受付終了）
　※日没よりライトアップ開始

●入苑料　大人（中学生以上）一二〇〇円　小人六〇〇円　茶菓子付き

◎閉苑日は梅の開花状況で判断いたします。

北野天満宮×長浜観光協会

第三回「北野盆梅展」開催

梅苑「花の庭」公開にあわせ、昨年に引き続き、滋賀県（公社）長浜観光協会（岸本一郎会長）出展協力・（公社）京都市観光協会（田中誠二会長）後援で、第三回「北野盆梅展」を一月十三日から二十八日まで文道会館にて開催する。

長浜観光協会で毎年開催されている長浜盆梅展は、昭和二十七年（一九五二）に始まり、今年で七十三回を数える歴史・規模ともに日本一といわれる盆梅展。

一昨年初めて開催された「北野盆梅展」は、長浜観光協会との長年の御縁により、当宮の梅苑開苑時期にあわせて開催することで、京都市と長浜市両市の観光をさらに発展させ、北野の梅の信仰をより広く発信していきたいとの強い想いのもとに実現させたもの。

今回は昨年より、約一か月早い開催で、初詣参拝者を含む多くの来場者を見込んでいる。

北野盆梅展

●開催期間　令和六年一月十三日（土）～一月二十八日（日）
●時　間　午前九時～午後四時（午後三時四十分受付終了）
●入場料　五〇〇円（未就学児無料）

北野盆梅展 展示の様子

KITANO
Plum Bonsai Exhibition

新春の祭典・行事

元旦より 初詣

当宮の初詣は、例年受験合格祈願を始め家内安全・厄除開運など、御祈祷を受けられる多くの方で御本殿は混雑するが、ここ数年来の新型コロナウイルス感染症拡大により減少傾向にあった。ただ、昨年五類感染症に移行されたことから、人の流れはコロナ前の様相に復活しつつある。しかしながら、新型コロナも依然として流行しており、加えてインフルエンザも例年以上の罹患率を示していることから、当宮としては、引き続き感染防止対策を施し、参拝者の動向を見極め密を避けながら昇殿参拝して頂くように配慮する。

授与所等でも、感染防止対策をしっかり施し、御札（おふだ）や御守り、招福の天神矢や梅ノ枝「思いのまま」など、お正月の縁起物を求められる参詣者に、安心してご参拝頂けるよう心配りをしていく。

一月一日 歳旦祭

新年最初の神事である歳旦祭が、午前七時から御本殿において斎行される。祭典では、年頭に当たり皇室及び国家の隆昌と世界の平和、氏子崇敬者を始めとする国民の弥栄を祈願する。

一月二日 筆始祭並びに「天満書（てんまがき）」奉納

午前九時から、御本殿に菅公御遺愛の硯などの御神宝を調え、書道の神でもあった菅公の御神徳を偲び、この日から神前書き初め「天満書」を始めることを御神前に奉告する。

「天満書」は、絵馬所で四日まで行われ、子どもたちが書道の上達を願って力強く書き初めをし、作品を奉納する。これに家庭で書いて奉納された作品を加え、例年約四千点が、十九日午後一時から二十六日午後三時まで西廻廊で展示され、展示初日に書家の先生らによって審査が行われる。

一月二日まで
献華展

華道家元池坊京都支部による新春を彩るいけばなの奉納。

毎年、元旦と二日に神楽殿で披露され、立花・生花・自由花の形でいけられた正月らしい生花が、初詣参詣者の目を楽しませている。

一月三日
新春奉納狂言

新春奉納狂言が午後一時から神楽殿で、猿楽会と茂山忠三郎社中によって行われる。

一月五日
そろばんはじき初め

「北野天満宮そろばんはじき初め奉賛会」に集う小中学生約四百人が、御本殿参拝の後、午前十時から絵馬所にて、そろばんの上達を願って「はじき初め」を奉納する。

長さ五・五メートル、四百桁もあるジャンボそろばんが毎年話題となる。

一月二十五日
初天神

一月二十五日は、一年で最初の縁日であり、特に「初天神」と呼ばれ、京阪神はもとより全国津々浦々から参詣者が訪れ親しまれている。表参道を始め境内周辺は、骨董や古物商・飲食品の屋台など多くの露店が立ち並び、一際賑わう。

この頃は、すでに受験シーズンに入っており、御本殿や牛社の前は、受験合格・学業成就を祈る若者が行列をなす光景が見られる。

二月三日
節分祭と追儺式

午前十時から御本殿で節分祭を斎行し、今年一年間の除災招福を祈った後、午後一時から神楽殿で、茂山千五郎社中による伝統の「北野追儺狂言」が奉納され、併せて上七軒歌舞会の芸舞妓による日本舞踊の奉納が行われる。そして最後に、狂言師と芸舞妓によって、神楽殿の上から威勢よく豆が撒かれる。

当宮は、京都の「乾（北西）の隅」の守り神として創建されて以来、災難除・厄除の社としても篤い信仰があり、節分には「四方詣り」と称して、当宮を始めとする四社寺を参拝し、無病息災を祈る習慣が根付いている。

二月二十五日

梅花祭

九百有余年の歴史を誇る祭典

菅公の祥月命日となる二月二十五日午前十時から、御本殿にて梅花祭を厳粛に斎行し、御祭神の御遺徳を偲び、御神慮を景仰申し上げる。

御神前には、七保会会員が調製した梅の花を用いた「梅花の御供」「紙立」という二種の特殊神饌が奉饌される。また、貞明皇后御参拝の古例により、宮内庁京都事務所長が、皇后陛下の御代理として拝礼される慣わしとなっている。

境内では、美しく咲いた梅花の下、上七軒の女将・芸舞妓らの奉仕により「梅花祭野点大茶湯」が催され、公開中の梅苑の馥郁たる花の香を愛でる人々や、縁日を楽しむ見物客も相交わり、境内は非常に多くの参拝者で賑わう。

三月二十五日

梅風祭

当宮崇敬者団体、梅風講社の祭典である梅風祭を、午後三時半から御本殿で斎行する。

祭典では、梅風講社の更なる隆盛と講員一同の無病息災を祈願し、御垂髪（おすべらかし）に巫女装束を身にまとった「八乙女」が、舞を優雅に奉納する。

北野の光

斎行された祭典・行事《十月～十二月》

一條天皇行幸始祭、厳かに斎行

一條天皇が当宮に初めて行幸されたことを寿ぐ祭典・一條天皇行幸始祭（中祭）を十月二十一日午前十時から御本殿で厳かに斎行、宮司が恭しく祝詞を奏上し、皇室の弥栄・国家の安泰を祈願した。

寛弘元年（一〇〇四）のこの日、一條天皇は初めて当宮へ行幸され、以降歴代天皇の当宮への行幸は二十数度に及んでいる。当宮への初行幸については藤原道長の日記『御堂関白記』にも記載されるほどで、当宮にとっては極めて重要なもの。

長年にわたり行幸始祭が斎行されてきたが、戦後の混乱期に一時途絶えてしまい、初行幸から一〇一〇年に当たる平成二十五年、六十数年ぶりに再興された。

境内華やぐ七五三詣

十月から十一月の終わりにかけて七五三詣の親子連れの参拝者が増え、境内は華やいだ雰囲気となった。

七五三詣の最盛期は例年通り十月終わりごろから。土曜・日曜・祝日を中心に、親に手を引かれた子どもたちで大賑わいとなった。羽織・袴の男の子や振袖姿の女の子の姿もあり、「動かないで」「笑って」と、スマートフォンをかざす親たちの声に恥ずかしそうにポーズをとる光景があちこちで見られた。

御本殿で小さな手を合わせて祈った子どもたちは、授与品の千歳飴や知恵のお守り、祝笹などを手にしてうれしさ一杯。スキップをして飛び跳ねる子や付き添いの手を振りほどいて反対方向へ行く子、座り込む子もいるなど周囲に笑いを振りまき、「かわいい」の参拝者の声が境内各所で上がっていた。

新嘗祭を斎行、五穀豊穣に感謝

今年収穫した新穀などを御神前に供えて五穀豊穣に感謝する新嘗祭を十一月二十三日午前十時から御本殿に神社役員・氏子崇敬者ら多数参列の下、厳かに斎行した。

新嘗祭は、天皇が天神地祇に新穀を供えて御自らも食し、五穀豊穣に感謝される重要な祭儀で、全国の神社でも、この日、斎行されている。

御神前には、今年収穫した稲穂や米、醸造されたばかりの白酒を始め海や山の幸が供えられ、宮司が祝詞を奏上、巫女が「豊栄舞」を奉奏し、今年の五穀豊穣に感謝、皇室の弥栄と国家の隆盛、氏子崇敬者の家内安全を祈った。

当宮独特の特殊神饌を供え 赤柏祭を斎行、神恩に感謝

赤くなった柏の葉で御飯を包んだ当宮独特の特殊神饌を御神前に供え、日々の神恩に感謝し、国民の無病息災を祈願する赤柏祭を十一月三十日午前十時から御本殿で斎行した。

柏の葉は、古代から神前への供物の下に敷くために使われるなど祭事用として神聖に扱われてきた。大嘗祭の神饌を盛り付ける容器も、竹と柏の葉で作られている。

当宮では六月十日に青い柏の葉に御飯を包んでお供えして斎行する青柏祭と、この日の赤柏祭を季節の変わり目の神事として古くから斎行している。『国語大辞典』（小学館発行）にも、青柏祭の紹介として「京都北野神社の祭り」として取り上げられており、かなり珍しい祭典といえる。

柏の葉は、境内に自生する柏の木から採取して使うが、安永七年（一七七八）の記録には、お供え用として採ったことが書かれ、柏の木の奉納や植樹の記録もある。

この日の祭典では、これも古くからの習わしによって胡桃（くりみ）の特殊神饌もいっしょに供えられた。

「去年の今夜清涼に侍す」

名詩『重陽後一日』の菅公偲び余香祭斎行
古式ゆかしく献詠歌披講式

配流先の大宰府において名詩『重陽後一日』をつくられた菅公を偲ぶ余香祭を、十月二十九日午後二時から御本殿において斎行した。

菅公は、右大臣の位にあった昌泰三年（九〇〇）九月、清涼殿での重陽の宴に召された折、見事な詩を詠まれ、醍醐天皇から褒美として御衣を賜った。しかしその翌年、左大臣藤原時平の讒言によって大宰府に配流され、そこにおいて一年前の栄華を追想され「去年の今夜清涼に侍す　秋思の詩篇独り腸を断つ　恩賜の御衣今茲に在り　捧持して毎日余香を拝す」との名詩『重陽後一日』を詠まれた。余香祭は、この故事にちなみ菅公を偲んで毎年斎行されている。

祭典の後、この日の恒例行事となっている献詠歌披講式が執り行われた。全国から寄せられた献詠（今年の兼題は「節」）の中から、歌人で公益財団法人・有斐斎弘道館館長の濱崎加奈子氏が選んだ十三首を、車座になった向陽会（冷泉為弘会長）の会員ら六人が、綾小路流の独特の節回しで古式ゆかしく披講した。

この日、御神前には白と黄の菊花が供えられ、神職・向陽会員らは烏帽子に菊花を挿して奉仕した。

令和五年余香祭献詠披講選歌『節』

足ひきの　山下竹の　節々に
雀飛び交ふ　秋のみやしろ　　塩小路　光胤

嫁の日を　定めて節と　する我が家
心をこめて　熨斗包出す　　波多野　千寿子

節廻し　上達の子に　笑みこぼれ
傾城阿波の　稽古しまひぬ　　若狭　静一

九重の　菊の節会の　一節切り
きり口青し　調べ澄むらん　　服部　満千子

恋ひて逢う　竹のもとすゑ　このひとよ
短かからむや　夏ならなくに　　田口　稔恵

よろづ代を　経し竹の節よ　心あらば
我に聞かせよいにしへの声　　選者　濱崎　加奈子

折節の　心をよめる　歌手向け
菊香ゆかしく　広前に祈く　　向陽会　中森　祐士

遠き代の　君がいさをは　今もなほ
きくの節会の　夜を思ひて　賀茂御祖神社権禰宜　田中　明仁

千代かさね　かざす小菊や　しのびつつ
節澄みのぼる　松の言の葉　　向陽会　杉田　潤

菅公の　神威を紡ぐ　萬燈祭
五十年ごとの　節目斎へり　　神田神社宮司　平野　修保

ふるさとの　神に祈らむ　みちびきを
頼みて越えむ　八十年の節　　御霊神社宮司　小栗栖　元徳

秋紅葉　黄菊かをれる　神の苑
あやに流るる　歌の節々　　向陽会会長　冷泉　為弘

北野なる　風月の杜は　天地の
節をうつせる　国都祭よ　　北野天満宮宮司　橘　重十九

令和六年　献詠兼題

▼一月　梅枝　▼二月　若菜　▼三月　宿木
▼四月　手習　▼五月　陸奥　▼六月　横笛
▼七月　空蟬　▼八月　夕顔　▼九月　篝火
▼御旅所　野分　▼十月　鈴虫　▼余香祭　夕霧
▼十一月　幻　▼十二月　橋姫

迎春準備完了しました！

令和六年の干支「辰」の大絵馬奉掲　下り龍ですべての人の幸せ願い

令和六年の干支「辰」＝龍＝を描いた大絵馬が十二月五日夕、楼門に取り付けられ、参拝者に一足早く新春の香を振りまいた。

天から舞い降りる龍を描いた干支絵馬は無垢のヒノキ材で造られ、幅三・三メートル、高さ二・二五メートル、重さ百二十キロという大きなもの。足場を組み、宮大工や神職が十人掛かりで取り付けた。

原画を描いた画家の三輪純子さんは、父の日本画家晃久氏らと作業を見守りながら「下り龍は、衆生を救うといわれており、すべての人の幸せを願い、明るい年であることを祈って描きました」と、話されていた。

事始め　大福梅の授与始まる

元旦の祝膳の縁起物として人気の高い大福梅の授与が事始めの十二月十三日から始まり、授与所は早くも正月ムードが漂った。

大福梅は、元旦に白湯や初茶の中に入れて頂くことで邪気を祓い、一年間の無病息災を祈る梅とのご縁が深い当宮ならではの縁起もの。疫病が流行した平安時代中期の天暦五年（九五一）、時の村上天皇も病に罹られたが、この茶を服され、平癒された、との故事にちなんでいる。

大福梅は、境内約千五百本の梅の木から採れた梅の実を塩漬け、カラカラになるまで天日干しにして調製し、裏白を添え、奉書紙に包んだもの。

「元旦に大福梅をお茶に入れて飲み、天神さまのご利益を頂くのが長年の習慣」という人も多く、初日から参拝者の並ぶ姿が見られた。

また、十二月一日から、楼門の「辰」の大絵馬を小型にした干支絵馬の数量限定の授与なども始まった。

正月巫女奉仕者の研修会開く　初詣参拝者応接の心得など学ぶ

初詣参拝者の応接に当たる正月巫女奉仕者研修会が十二月二日に行われ、約百三十人の学生が午前と午後の二回に分けて接遇の心得などをみっちり学んだ。

この時期恒例の研修会で、白衣・緋袴に着替えた学生たちは御本殿に昇殿参拝し、初詣参拝者の応接が無事に務まるように祈った。

この後、文道会館での研修会に臨み、御守りやお札を始め授与品などの種類、言葉遣いや第一線に立って参拝者と接する応接の仕方などについて、神職から学んだ。

万一、火災が起きた時の対応として、当宮衛視から消火器の使い方の説明も行われた。

今回は巫女奉仕経験者も多く、研修は終始スムーズのうちに終わった。

北野と紙の信仰

境内の紙屋川はかつて御所の紙漉き場 清き水と紙・文芸の信仰深い北野天満宮

北野天満宮燈籠保存会役員

京都紙商北野献燈會 献燈記念写真（昭和26年 12月）

当宮の境内西側・史跡御土居内を流れる紙屋川は平安時代、官用の製紙所である紙屋院が置かれ、紙屋院で奉製された和紙は、御所で使用する紙として献上されていた。

学問の神として崇敬される当宮は、連歌や和歌をはじめとする文芸の聖地として讃えられ、文芸に伴い、紙を含む文芸書道具や書籍類なども古くより受け継がれている。

そのような文芸信仰の元、古来紙関係者の崇敬が篤く、明治三十五年の菅公御神忌一千年大萬燈祭に際しては、和紙発祥の地を顕彰するべく、「京都紙商」の名で表参道に燈籠を奉納（その後昭和二十六年に現在の石燈籠二基を奉納）され、崇敬の誠を表されている。

北野天満宮燈籠保存会主催 「紙と親しみ紙とふれあい紙を愛でる」催し

第三回「紙と親しみ 紙とふれあい 紙を愛でる」催しが十一月十二日、文道会館で開催され、紙漉き体験コーナーや「紙芝居」などがあり、賑わった。

表参道に二基の石燈籠を奉納されている和洋紙の製造・加工・販売業者の子孫で組織する北野天満宮燈籠保存会（小谷敬二会長）の主催。「先祖の思いを引き継ぎ、紙にもっと親しんでもらおう」との願いを込めての催しだが、コロナ禍によって令和元年に開いて以来休んでおり、四年ぶり三回目の開催。

文道会館内には、各種紙の販売コーナーや、綾部市の黒谷和紙協同組合協力による紙漉き体験コーナー、帝塚山大学学生による「紙芝居」なども行われ、賑わった。

開催に先立ち会員は、先祖が奉納した石燈籠の前で記念撮影をした後、御本殿に正式参拝し、事業発展と天神様への感謝を祈念した。

表参道に残る京都紙商御奉納石燈籠

茶文化が息づく歴史舞台「北野の地」で 第十三回北野大闘茶会開く 七十五人が雅な茶遊びに挑戦

第十三回北野大闘茶会（京都市茶業組合・京都市茶業青年会主催）が十月十五日、絵馬所で開かれ、中国、フランスなどの海外の参加者を含む七十五人が優雅な茶遊びに挑戦した。

茶歌舞伎は古来、中国の宗の時代に一座に集まった人々が抹茶の産地や茶を点てるのに使用した水の種類を判別し勝負を決める「闘茶」を行なったのが始まりとされている。

その後日本に伝播した闘茶の全盛期は南北朝時代から室町初期の東山文化の時代で、上流の公家や武家社会の間で盛んに嗜まれた。

太閤秀吉公が千利休居士ら茶人とともに催した天正の北野大茶湯ゆかりの当宮では、令和の今も茶文化が息づく格好の舞台として毎年十月に開催している。

玉露・煎茶各二種類、荒茶一種類、計五種類の茶を試し飲みした後、各茶の名を隠したまま三回ずつ味わって茶の種類当てを競った。参加者は、神妙な顔つきで茶を味わい、茶の種類を紙に書き込んでいた。京都府宇治田原町から参加した女性が最高得点を挙げ、北野天満宮賞が贈られた。

京都最古の花街「上七軒」を舞台に花街の文化と魅力を発信

上七軒匠会が中心となり「上七軒北野灯路」始まる

「上七軒北野灯路～ライトアップとスタンプラリーで京都最古の花街を歩く～」の催しが十一月十日から十二月三日まで行われた。

この催しは「おもてなし文化～受け継がれゆく京の花街～」の日本遺産認定を目指す京都市の取り組みの一環で、上七軒匠会、上七軒歌舞会、当宮が呼応した。

当宮の門前町で、日本最古の花街である上七軒通にみたらし団子に由来する上七軒の紋章をあしらったオリジナル灯籠五十基が設置され、この日夜から石畳を淡く照らした。

立命館大邦楽部が当宮で初の演奏会

煌々と月輝く中、参拝者聴き入る

立命館大学の邦楽部による演奏会が十一月二十六日夜、紅梅殿で催され、ライトアップされたもみじを愛でる参拝者らの耳を楽しませた。

尺八・三味線・琴・十七弦の総勢十三人による重奏を皮切りに編成を変えながら古典から新曲まで次々披露し、お馴染の『六段の調べ』まで邦楽の音色を響かせた。演奏の合間には「部員二十二人の大半は大学に入ってから邦楽を始めた。日頃の練習の成果をこんな素敵な舞台で披露させてもらえてうれしい。部員一同心込めて演奏します」といった司会の挨拶や演奏する曲名とともに楽器名や演奏者名の紹介も行われた。当宮では立命館大学の学生によるボランティアガイドはよく活動されているが、邦楽部による演奏会は今回が初めてとなった。

北野天神太鼓会、勇壮に和太鼓奉納 仁和小太鼓クラブとの合同演奏も盛会

当宮のもみじ苑の恒例の奉納行事である北野天神太鼓会の和太鼓奉納が、十一月十一日紅梅殿前の船出の庭で、盛大に披露され、紅葉狩りで来宮の参拝者を楽しませた。

「一心」「三宅」「対流」など九曲を奉納し、演奏曲の中でも、「川原太鼓」「勇駒」の二曲は、仁和小太鼓クラブとのコラボレーションで演奏され、息の合ったバチさばきが観覧者の拍手を呼んだ。

太鼓会の奉納は、十九日、二十五日、十二月三日の夜にも行われ、十一月の三回は仁和小学校との合同演奏だった。

玲月流の篠笛奉納 玲月流森田玲氏「錦繍の笛」

玲月（れいげつ）流初代の篠笛奏者、森田玲氏とその元で研鑽を積む弟子たちによる篠笛奉納が十一月十二日午後二時、紅梅殿にて行われ、多くの参拝者が清らかな音色に聴き入った。

篠笛は、日本に古くから伝わる竹の横笛。玲月流の篠笛は、祭囃子の指使いと呼吸法を基本とし、清らかで透明な表現を魅力とし、森田氏はじめ門下生らが奉納演奏活動を行なっている。

「ものづくりtenmangu」開く

「ものづくりtenmangu マルシェ」が十一月十二日、右近の馬場西の広場で開催された。

各地で手作り市を開いている「ものづくりcross road」（山中陽太代表）の主催で、当宮での開催は八回目。

アクセサリーや木工品、革製品、和服を仕立て直した洋服を扱う店、菓子やパンなどの食料品を扱う店などなど、地元上京区からの出店もあり約九十のブースが並んだ。アコースティックギターや二胡を奏でる音楽のライブイベントも行われた。

上京区自衛消防隊訓練大会

令和五年度上京区自衛消防隊訓練大会（上京自衛消防連絡協議会主催）が十月十九日、京都市南区の市消防活動総合センターグラウンドで行われた。

消火器の部▽2号消火栓の部▽屋内消火栓の部▽屋外消火栓の部の五部門に十七事業所から十七チームが出場。当宮は屋外消火栓の部に出場し、四人がチームワークよく日頃の練習の成果を披露した。

正式参拝された皆様（敬称略）（十月～十二月）

十月　一日（日）　奉行会・北野祭保存会・神若会
十月　四日（水）　奉行会・北野祭保存会・神若会
十月　十一日（水）　二見興玉神社
十月　十三日（金）　松阪市立小野江小学校
十月　十九日（木）　大和天満宮
十月　二十二日（日）　立命館大学歴史回廊協議会
十月　二十六日（木）　福井市上北野親和会
十月　二十八日（土）　高橋克典
十一月　三日（金）　立命館西園寺塾
十一月　六日（月）　大原天満宮氏子総代
　並び大原天満宮講員
十一月　十二日（日）　京都紙商燈籠保存会
　篠笛玲月流
十一月　十四日（火）　神宮研修所
十一月　十五日（水）　京都産業大学　下出ゼミ
十一月　十八日（土）　十八日会
十一月　十九日（日）　源久寺団参
　京都連歌の会
十一月　二十日（月）　中島町会会長連合会
十一月二十一日（火）　酒井田柿右衛門
十一月二十四日（金）　ブライトンホテル
十一月二十五日（土）　株式会社アシスト「歓楓の会」
十一月二十六日（日）　天神真楊流柔術
十一月二十七日（月）　立命館大学邦楽部
　近畿宗教連盟
　旧嵯峨御所　大本山　大覚寺
十一月二十八日（火）　三越伊勢丹
十二月　二日（土）　株式会社　白鳳堂
十二月　三日（日）　巫女奉仕者研修会
　マリアズベビーズソサエティ
　松岡まりあ、塩尻敬子
　露の五郎兵衛一門
十二月　八日（金）　平濱八幡宮　宮司　青木義興
十二月　十三日（水）　ホテルオークラ京都「季節の旅」
十二月二十二日（金）　神社庁役員会

挙式された皆様（十月～十二月）

十月　八日（日）　花田　丈流・美玖　ご夫婦
十一月　十一日（土）　田中　和成・翠　ご夫婦
十一月二十四日（金）　ポゲンポーエル　フィリッパス・凪彩　ご夫婦
十二月　九日（土）　田中　里奈・綾花　ご夫婦
十二月　九日（土）　松本　修・愛　ご夫婦

新郎新婦様御両家の皆様の末永いご多幸をご祈念申し上げます。

祭事暦（1月1日～3月31日）

［1月］
1日 午前7時　歳旦祭（中祭式）
2日 午前9時　筆始祭 天満書（午前10時）
　神前書初め（4日まで）
　家庭書初め（5日まで受付）
3日 午前9時　元始祭
　奉納狂言（午後1時）茂山忠三郎社中
7日 午前9時半　若菜祭
9日 午前10時　摂社白太夫社例祭
14日 午前10時　末社伴氏社例祭
15日 午前10時　月次祭 御粥祭 成人祭
17日 午後4時半　神社役員新年奉饌
25日 午前9時　月次祭
　午後2時　書初め「天満書」授賞式
　午後4時　夕神饌
　初天神

［2月］
1日 午前10時　月首祭・斎祭
3日 午前10時　節分祭
　北野追儺式（午後1時）
　追儺狂言 茂山千五郎社中
　日本舞踊 上七軒歌舞会奉納
　豆撒き
4日 午前10時　霞祭
　摂社地主社霞祭
11日 午前9時半　紀元祭
12日 午前9時半　末社稲荷社初午祭
15日 午前10時　月次祭
23日 午前9時半　天長祭
24日　参籠
　午後4時　梅花祭前夕饌
25日 午前10時　梅花祭（中祭式）
　午後4時半　夕神饌
　野点茶会（午前10時）上七軒歌舞会奉仕

［3月］
1日 午前10時　月首祭
12日 午前10時　摂社老松社例祭
　摂社福部社例祭
14日　参籠
15日 午前10時　春祭（大祭式）
20日 午前10時　春季皇霊祭遥拝式
　摂末社春季祭
25日 午前9時　月次祭
　午後3時半　梅風祭 八乙女舞奉納
　午後4時半　夕神饌
27日 午前10時　摂社宰相殿社例祭

月釜献茶（1月1日～3月31日）

［1月］	1日	献茶祭保存会	休会	（明月舎）
	15日	献茶祭保存会	鈴木宗博	（明月舎）
		松向軒保存会	赤松宗武	（松向軒）
	21日	梅交会	村岸宗紫	（松向軒）
	28日	紫芳会	休会	（松向軒）
［2月］	1日	献茶祭保存会	不審菴社中	（明月舎）
	11日	梅交会	扶桑会	（松向軒）
	15日	献茶祭保存会	堀内社中	（明月舎）
		松向軒保存会	村上宗美	（松向軒）
	25日	紫芳会	鬼塚宗節	（松向軒）
［3月］	1日	献茶祭保存会	馬場宗鶴	（明月舎）
	10日	梅交会	泉恵会	（松向軒）
	15日	献茶祭保存会	速水滌源居	（明月舎）
		松向軒保存会	藤井宗恵	（松向軒）
	24日	紫芳会	布施宗青社中	（松向軒）

献詠　濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

十月「嵯峨」

嵯峨の池龍神舟は琴に歌
　舞に茶手向けて秋極まれり　京都市　小山　博子

音に聞く嵯峨の念仏徳高く
　修業のためにためす法堂　京都市　波多野千寿子

四年ぶり秋の嵯峨野を訪れて
　外国人の多さにびっくり　兵庫県　村島　麗門

訪ふたび異なる事象思はるる
　歴史の厚さ誇れる嵯峨野　京都市　朧谷　寿

花すすき風になびくやそこばくの
　衆生にひとし良夜の嵯峨は　京都市　若狭　静一

小倉山細きあせ道奥に入る
　歌の聖の緑に眠る　京都市　塩小路光胤

【評】
平安時代前期より貴族の遊猟地、別業の地として発達した。枕草子に「野は嵯峨野、さらなり」とされ、歌ではとりわけ秋の風情が詠まれた。源氏物語でも晩秋の風景が描かれている。

十一月「千種」

果物は夏秋冬春千種成し
　色冴え香り世の宝なり　京都市　小山　博子

亡き夫の愛を忘れず強く生く
　庭の千種の隠されし意味　兵庫県　村島　麗門

残せしは歌の千種よ君が逝く
　空に昴の光ありけり　京都市　若狭　静一

年ふりて家なき原は八千草の
　色なつかしき折りしひともと　京都市　服部満千子

空映す千種の色は長雨に
　藍を深みてぬばたまの夜　東京都　白石　雅彦

【評】
種類の多いことをいう。「秋の野のちぐさの色をわが宿に心よりこそ移しそめつれ」（良経）など、「千草」（多くの種類の草）とかけて詠まれることが多い。

十二月「庵」

風呂けむり白川郷の夕映えに
　立ち昇り行く木々の薫香　京都市　小山　博子

いずくにも我が庵ほど良処なし
　心溶け合ふ家族の絆　京都市　波多野千寿子

方丈の庵を結び八百とせの
　紅の森に星は降りしく　東京都　白石　雅彦

掛け軸の言の葉問ふや荒れし庵
　住みにし人の心偲ばる　京都市　服部満千子

寂庵は多くの人の道標
　その意志を継ぐ秘書の挑戦　兵庫県　村島　麗門

【評】
草木でつくった粗末な小屋のこと。「我が庵は都のたつみしかぞ住む世をうじ山と人は言ふなり」（喜撰）など、遁世者の住まいや、仮寝の小屋をいう。自分の家を卑下して「庵」ということも。

●献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

天神さん　思い出写真館

昭和三年春斎行の千二十五年半萬燈祭初日の四月二十二日、御本殿前の中庭で行われた「唱歌奉告祭」の写真である。

御神前で唱歌を奉納したのは、翔鸞・仁和・朱雀の三小学校の児童で、歌った唱歌は、この日のために作られた上島信三郎氏作詞の『菅公』。作曲者の近藤芳次氏の指揮によって児童は厳粛・壮重に歌いあげた、と記録に残されている。

唱歌『菅公』は四番まであるが、二番まで紹介する。

一．つくしのはてのかりずまい　軒端の月をながめつつ　恩は深し去年今宵　清涼殿の菊の宴

二．恩賜の御衣を取出て　余香拝せし真心は　伝えつたえて世の人の　千代の鏡と仰がるる

菅公が配流先の大宰府で詠まれた名詩『重陽後一日』に題を取った唱歌であることは明らかだ。六万五千枚を印刷して、京都市内外の小学校に頒布されたという。

天満宮歴史の一齣

光悦本謡曲百番――その二――

京都大学名誉教授
藤井 譲治

光悦本謡曲については、昭和四五年に刊行された江島伊兵衛・表章著『図説謡本』があり、以下の叙述も多くそれによっている。

光悦謡本には、大きく分けると、特製本・上製本・色替り本・袋綴本の四種が知られている。成立の順は、表氏によれば、上製本・特製本・色替り本・袋綴本とのことである。

また、特製本は八部、上製本は九部、色替り本は十一部が知られているが、北野天満宮所蔵の本（以下、北野本と記す）は、上製本であり、なかでも早く刊行されたものとされている。

北野本は一〇〇冊からなるが、内五冊（江口・源氏供養・関寺小町・定家・野の宮）は上製本を模写復刻したものと認められる精妙なる製版本、一冊（通小町）が補充本からなる。

北野本の装幀は、大判の半紙本、縦二四・〇糎、横一八・〇糎、綴帖装、大半は二帖仕立てである。

表紙・裏表紙は、本文料紙と同じ紙に数種の染紙を貼り、肌色・水色・緑色・淡黄色・淡紫色・白色など多様な色がある（写真）。

料紙は、胡粉を一面に引いた二枚の斐紙を貼り合わせたものである。

表紙の雲母模様は、特製本と比較して鮮明であり、模様図柄は、三二を数える。

模様図柄は、多い順にあげると、

メヒシバ（一一冊 西行桜他）、枝付き大竹（八冊、春栄他）、大鹿に霞（六冊、千手重衡他）、梅が枝（五冊、兼平）、飛び交う鶴（七冊、高砂他）、鹿に花樹（二冊、実盛他）、飛び交う鶴（一冊、ありとほし）、梅の立枝（六冊、難波他）、梅が枝（一冊、海士）、蝶にメヒシバ（三冊、朝顔他）、蝶二羽（一冊、放生川）、唐草十字印襷文（五冊、俊寛他）、水に蜻蛉（一冊、氷室）、松林（二冊、采女他）、松林と波甲（三冊、東岸居士他）、松林に波乙（二冊、富士太鼓他）、松山満月（四冊、清経他）、蔦（一冊、華かたみ）、水草（一冊、鸚鵡小町）、籠の花（三冊、龍田他）、紫苑模様甲（一冊、班女）、紫苑模様乙（二冊、皇帝）、紫苑模様丁（一冊、玉かつら）、蛇籠に波（一冊、右近）、藤水巴文（三冊、景清他）、乱れ藤（三冊、鵺他）桐（一冊、井筒）、枝付桐（一冊、殺生石）、倒れ薄（一冊、当麻）、水草（一冊、善界）、雷文蔓牡丹（一冊、かなわ）、紫陽花（四冊、老松）である。

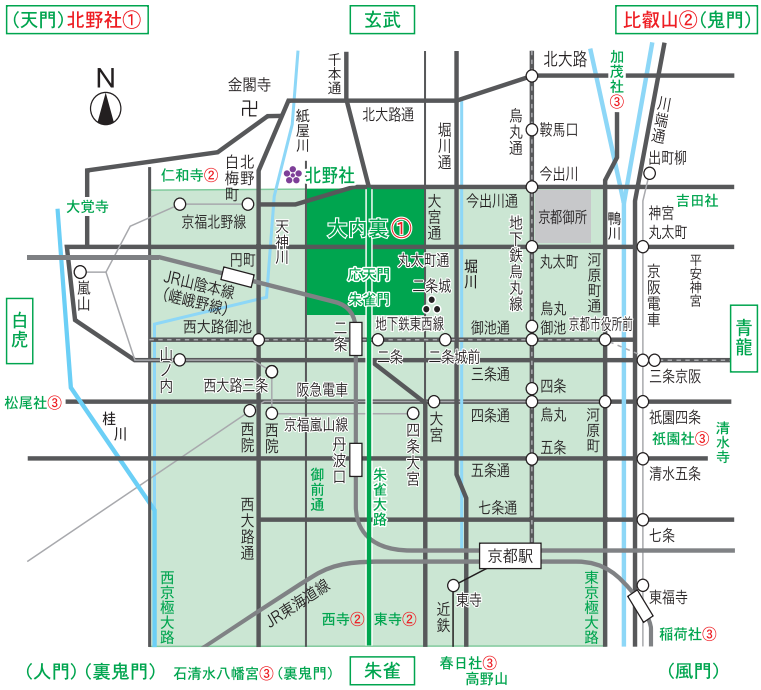
天神信仰の主な歴史

（注）歴史事項　北野天満宮事項　伝説事項

菅公薨去後、およそ百年かけて醸成され千年受け継がれる天神信仰

承和	十二年	八四五	菅原道真公（菅公）御誕生（父 是善 母 伴氏）　父 是善との親子の契り
斉衡	二年	八五五	初めて詩「月夜に梅花を見る」を作る　（菅公十一歳）
貞観	元年	八五九	菅公元服　文章生を目指し勉学　菅公 石清水八幡宮参拝
貞観	四年	八六二	文章生の試験に合格　（菅公十八歳）
貞観	八年	八六六	比叡山延暦寺円仁の『顕揚大戒論』の序文を書く
貞観	九年	八六七	文章得業生となる　（菅公二十三歳）
貞観	十二年	八七〇	方略試（当時最高の国家試験）に合格　（菅公二十六歳）
			この間少内記（詔勅の起草係）式部少輔など任ぜらる（菅家廊下を継承）
仁和	二年	八八六	讃岐守に任ぜられる　（菅公四十二歳）
仁和	四年	八八八	〈阿衡問題〉につき藤原基経に意見書を送る　（菅公四十四歳）
			これにより宇多天皇に挙用され政治の刷新を図ると共に平安京文化の礎を築く
寛平	四年	八九二	従四位下『三代実録』『類聚国史』の編纂に着手
寛平	五年	八九三	参議・式部大輔・左大弁を経て勘解由使長官
寛平	六年	八九四	遣唐大使に任ぜらる　（菅公五十歳）
寛平	七年	八九五	渤海客使を接待し詩を交換　中納言従三位
寛平	九年	八九七	正三位に叙し中宮大夫を兼ねる
昌泰	二年	八九九	菅公右大臣に任ず　位人臣を極める
昌泰	三年	九〇〇	『菅家文草』『菅相公集』『菅家集』を献上す（三善清行、菅公に辞職を勧告）（菅公五十五歳）
延喜	元年	九〇一	一月二十五日大宰権帥に左遷される　大宰府南館で謫居の日々（菅公五十七歳）
延喜	三年	九〇三	詩集『菅家後集』を京の紀長谷雄に送る　天拝山で「天満大自在天神」となる
			二月二十五日　配所において薨ず　（菅公五十九歳）
延喜	五年	九〇五	味酒安行　大宰府の御墓所に祠堂を建てる（現在の太宰府天満宮）
延喜	六年	九〇六	門弟許され　京の都西ノ京にて菅公神霊を祀り始める
延長	元年	九二三	菅公を元の右大臣・正二位に叙し　左遷の宣命を破棄す
天慶	五年	九四二	多治比文子　比良宮神官の子太郎丸らに神託（朝日寺の僧 最鎮）
天暦	元年	九四七	村上天皇により平安京の天門北野に鎮座す
			村上天皇御鳳輦御寄進
天暦	三年	九四九	村上天皇勅命により難波宮の地に菅公神霊を祀る（現在の大阪天満宮）
天徳	三年	九五九	右大臣藤原師輔　北野の神殿を増築し神宝を献ずる
寛和	二年	九八六	慶滋保胤「文道之祖詩境之主」の願文を草す
永延	元年	九八七	一條天皇より北野社官幣に預り「北野天満大自在天神」の神号を賜る
			北野社は官幣社となり勅祭北野祭が斎行される（江戸末期迄）
			一條天皇御鳳輦御寄進
正暦	四年	九九三	左大臣・正一位　次いで太政大臣を追贈される
寛弘	元年	一〇〇四	一條天皇初めて臣下を祀る北野社に行幸　以後歴代天皇の行幸に与る
永保	元年	一〇八一	北野社が国家の大事を祈る二十二社に臣下で異例の加列
康和	三年	一一〇一	大宰権帥大江匡房により大宰府・安楽寺にて神幸式大祭が斎行される
建久	五年	一一九四	『北野天神縁起』建久本成る
承久	元年	一二一九	『北野天神縁起』承久本成る
応永	八年	一四〇一	北野経王堂成る
応仁	元年	一四六七	室町幕府の崇敬で「北野祭」隆盛を極めるも応仁の乱より途絶える
天正	十五年	一五八七	「北野大茶湯」を豊太閤・千利休居士ら催す
慶長	八年	一六〇三	出雲阿国が北野境内で初めてややこ踊り（歌舞伎踊り）を公演（歌舞伎発祥）
慶長	十二年	一六〇七	豊臣秀頼公　北野社社殿を造営する（慶長の大造営）
			後西天皇御宸筆 勅額「天満宮」御寄進（三光門掲額）
江戸年間		後期	北野をはじめ太宰府・大阪・湯島など主要な天満宮に「和魂漢才碑」建立
元治	元年	一八六四	勅命により北野祭臨時祭再興
慶応	四年	一八六八	神仏判然令（神仏分離）により　天台宗比叡山延暦寺のもと
			社務を統括していた曼殊院との凡そ千年間に亘る神仏習合が終わる
明治	四年	一八七一	北野天満宮 臣下で異例の官幣中社となる
			太宰府天満宮 国幣小社となる（のち官幣中社）
明治	三十五年	一九〇二	菅公千年大萬燈祭を斎行する
昭和	二十七年	一九五二	菅公千五十年大萬燈祭を斎行する
平成	十四年	二〇〇二	菅公千百年大萬燈祭を斎行する
令和	二年	二〇二〇	例祭（かつての北野祭）斎行に伴い　比叡山延暦寺と共に北野御霊会を再興
令和	九年	二〇二七	菅公千百二十五年半萬燈祭を斎行予定

今昔マップ



◆北野社創建（平安時代）至現在
◆現在の京都

□ 平安京全域
■ 平安宮 大内裏

注①　国都平安京大内裏で千百年間天皇の祭政が執行され、日本文化が育まれてきた。

注②　平安京・大極殿の天門に北野、鬼門に比叡山、宇多天皇創建の仁和寺などが精神的中心となって熟成の礎となった。

注③　八幡さま、稲荷さまを始め多くの神仏は国都平安京（元の国都平城京）の近畿より全国に伝播。

天満宮
［第三十八号新年号］令和六年一月一日 編集・発行／北野天満宮 編集責任者／橘 重史 〒六〇二―八三八六 京都市上京区馬喰町 電話 〇七五―四六一―〇〇〇五（代表） http://kitanotenmangu.or.jp/

紅梅殿結婚式

日本文化の発信地、紅梅殿からはじまる家族の日

貞観元年（八五九年）菅公が十五歳の元服の折、母君は菅公の前途を祝し、

『久方の月の桂も折るばかり
家の風をも吹かせてしがな』

の和歌を詠み励まされました。

我が国で最初に家風を表されたのが、菅公の母君であったと伝えられています。立派な家風をもった稔り多い豊かな家庭を築かれますようにとの願いをこめて、菅公邸宅ゆかりの紅梅殿での神前結婚式から新しい「家族」がはじまります。

梅の枝「思いのまま」

元旦から授与――

◆頒布開始　令和六年元旦より
◆初穂料　一本 一〇〇〇円
（但し、無くなり次第頒布終了）

千五十年大萬燈祭（昭和二十七年）の初天神で参拝者に授与していた経緯より、約六十年ぶりに授与を復活させた招福の梅の枝「思いのまま」。

「思いのまま」には、菅公を偲ぶ梅花祭で御神前に供える特殊神饌の調製に用いる厄除けの玄米が入ったヒョウタンを取りつけ、家庭に春の訪れと幸せを呼んでほしいとの願いを込めている。

招福厄除けの社 北野天満宮の節分祭

◆節分特別授与品の頒布

〈初穂料〉

●福豆の授与（三種類）　各一袋　二〇〇円

●災難厄除箸の授与（数に限りあり）　八〇〇円

●災難除の御札守・銀幣の授与

災難除の御札	一体　三五〇円
災難除の御守	一体　三五〇円
銀幣	一体　九〇〇円

御縁日 境内ライトアップ

毎月25日は天神さんの御縁日。
境内特別ライトアップ！

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

右記ＱＲコードを携帯電話やスマートフォンで読み込むと北野天満宮の最新情報にアクセスできます。上記の各ＳＮＳでもご案内しております。

●アクセス

名神高速道路南インター又は東インターより約30分
第二京阪道路鴨川東インターより約20分
JR京都駅より市バス50系統
JR・地下鉄二条駅より市バス55系統
JR円町駅より203系統
地下鉄今出川駅より市バス51・203系統
京阪出町柳駅より市バス203系統
京阪三条駅より市バス10系統
阪急大宮駅より市バス55系統
阪急西院駅より市バス203系統
京福電車白梅町駅より徒歩5分
いずれも北野天満宮前下車すぐ

●参拝時間

■7時～17時
但し、毎月25日（御縁日）は6時30分から20時
※青もみじ苑・もみじ苑・梅苑「花の庭」のライトアップ期間や正月等は夜間も開門しています。最新情報はホームページ等のお知らせ記事をご覧ください。
■文道会館・授与所　受付時間　9時～16時30分

●御祈祷

■受付時間　9時～16時
■受付場所　御本殿東側授与所

●駐車場

毎月25日は、御縁日のため駐車できませんので公共交通機関でお越しください。